

# 官報

號外

明治三十四年三月二十日

水曜日

印刷局

## ○第十五回 帝國議會 衆議院議事速記録第十五號

明治三十四年三月十九日(火曜日)午後一時五十分開議

議事日程 第十五號 明治三十四年三月十九日

午後一時開議

一 議決下期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル法律案(政府提出、貴族院同付)

二 水害地方田畑地租免除ニ關スル法律案(政府提出、貴族院同付)

三 生絲検査所法中改正法律案(政府提出)

四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

五 馬匹去勢法案(政府提出、貴族院同付)

六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

七 巡查看守退廳料及遺族扶助料法案(政府提出)

八 明治三十三年勅令第二百九十四號(承諾ヲ求ムル件)(委員長報告)

九 内務省所管歲出臨時部土木事業費中信濃川河口修築費繰越ニ關スル法律案(政府提出)

十 決議案(鳩山和夫外)(九名提出)

十一 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案(栗原亮一外)(四名提出)

十二 明治二十四年法律第二號中改正法律案(大矢四郎兵衛提出)

十三 葉煙草專賣法中改正法律案(西原清東外)(十五名提出)

十四 不動産登記法中改正法律案(松島廉作外)(一名提出)

十五 町村制中改正法律案(松島廉作外)(一名提出)

十六 烟地價特別修正法律案(平岡萬次郎提出)

十七 刑法中改正法律案(安藤龜太郎外四名提出)

十八 刑法中改正法律案(安藤龜太郎外二名提出)

十九 刑法中改正法律案(安藤龜太郎外四名提出)

二十 民法中改正法律案(安藤龜太郎提出) 第一讀會

二十一 外國語學校擴張ニ關スル建議案(神藤才一提出)

二十二 農會補助金追加豫算ノ提出ニ關スル建議案(稻垣示外)(二名提出)

二十三 農事試驗場水產試驗場國庫補助金追加豫算ノ提出ニ關スル建議案(稻垣示外)(二名提出)

二十四 花窟神社ニ關スル建議案(栗原亮一外)(二名提出)

○議長(片岡健吉君) 報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

永代借地權ニ關スル法律案

貴族院ハ本院ノ回付ニ係ル移民保護法中改正法律案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒アリ

議決下期新開免租年期地價据置年期延長ニ關スル法律案

提出者 早川 龍介君 加藤 六藏君 門脇 重雄君

堀尾 茂助君

開墾地開拓地新開地年期繼續ニ關スル法律案

提出者 早川 龍介君 加藤 六藏君 門脇 重雄君

堀尾 茂助君

千島開發ニ關スル建議案

提出者 松岡 長康君 小田 貫一君 佐藤 琢治君

補助貨幣ノ改鑄ニ關スル建議案

提出者 栗原 亮一君 大三輪 長兵衛君 藤 金作君

永井 嘉六郎君 齋藤 卯八君 根 本正君

安藤 龜太郎君 濱名 信平君 重野 謙次郎君

林 彦一君 飯島 正治君 高橋 九郎君

稻垣 示君 淺野 順平君 長坂 重孝君

野尻 岩次郎君 武弘 宜路君 石黒 涵一郎君

門脇 重雄君 恆松 隆慶君 西村 淳藏君

申本 康三君 小田 貫一君 堀家 虎造君

新開 貢君 有村 連君 富永 隼太君

横山 通英君 佐藤 昌藏君

公債抽籤償還ヲ實施スル建議案

提出者 栗原 亮一君 大三輪 長兵衛君 藤 金作君

永井 嘉六郎君 齋藤 卯八君 根 本正君

安藤 龜太郎君 濱名 信平君 重野 謙次郎君

林彦一君 飯島正治君 高橋九郎君  
稻垣示君 淺野順平君 長坂重孝君  
野尻岩次郎君 武弘宜路君 石黒瀧一郎君  
門脇重雄君 恆松隆慶君 西村淳藏君  
申本康三君 小田貫一君 堀家虎造君  
新開貢君 有村連君 富永準太君  
横山通英君 佐藤昌藏君

請願法制定ノ建議案  
提出者 平岡萬次郎君 山田喜之助君 藤澤幾之輔君  
關直彦君 望月長夫君

福田久松君ヨリ煙草ニ關シ、田中正造君ヨリ無責任ノ答辯ニ對スル件、粗漏無責任ノ答辯ニ對スル件、第十四議會ノ質問答辯ニ對スル件、續毒ニ付無責任ノ答辯ニ對スル件、一方ニハ河身ヲ浚渫シ一方ニハ共同水源山林ノ濫伐ヲ許可セシ件、第十四議會ニ於テ議員田中正造質問書ヲ提出セシニ政府ノ答辯ナキヲ以テ再質問ノ件、安部井磐根君ヨリ勅語ニ關シ質問主意書ヲ提出セラレタリ

委員長及理事左ノ適當選セラレタリ

巡查看守退隱料及遺族扶助料法案

委員長 井上源衛君 理事 武市庫太君

葉煙草專賣法中改正法律案

委員長 西原清東君 理事 橋元易君

鐵道敷設法中改正法律案外四件

委員長 濱名信平君 理事 野間五造君

續職法案

委員長 後藤文一郎君 理事 竹内正志君

酒類造石稅納期改正ニ關スル建議案

委員長 長坂重孝君 理事 內藤守三君

商船學校生徒遺族扶助ニ關スル法律案

委員長 加藤政之助君 理事 吉田源八君

野蒜築港ニ關スル建議案

委員長 田村順之助君 理事 須藤善一郎君

山形縣下郡界變更法律案

委員長 戶狩權之助君 理事 西村淳藏君

名和昆蟲研究所ニ交付スヘキ國庫補助金追加豫算ノ提出ニ關スル建議案

委員長 大村和吉郎君 理事 石井鼎君

下總國舊牧開墾地ニ關スル建議案

委員長 高津雅雄君 理事 望月圭介君

煙草ニ關スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 福田久松

贊成者 天野若圓

外三十二名

煙草ニ關スル質問主意書

一 現行ノ葉煙草專賣法ハ徒ニ繁多クシテ利少ク寧ロ舊印紙稅法ニ如カサルカ如シ然ルニ政府カ今ニ於テ此ヲ改正スルノ計畫ナキハ如何  
二 葉煙草專賣法實施以來密賣買其他弊害非常ニ多シ政府ハ如何ニシテ之ヲ矯正セント欲スル乎  
三 煙草ハ將來我唯一ナル一大財源ナルニモ拘ラス其現行制度ハ總テ其發達ヲ抑止スルノミナラス又總テ當業者ノ大ナル者ヲ助ケテ小ナル者ヲ壓スルノ方針ナラサルハナク今ヤ其實況ハ愈々甚シク遂ニ我カ煙草業ハ將ニ外人ノ爲メニ獨占セラレントスルノ傾キヲ生シ來レリ政府ハ之ニ對スル施策アリヤ

無責任ノ答辯ニ對スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 田中正造

贊成者 原田赴城

外四十名

質問主意書

第十四議會ニ於テ議員田中正造ヨリ續毒ノ爲メ天產ヲ亡滅スヘキ有形上ノ價格ニヨル質問答辯書ニ因ルニ「養眞瀨川沿岸被害耕作地ノ害ハ主トシテ洪水ノ氾濫ニ基因スルモノニシテ不時天災ニ屬シ今日ヨリ將來ノ損害ヲ豫想計算スル能ハス」トアリ是レ不當ノ甚シキモノ田中正造ノ質問ノ主意ハ續毒水災ニヨリテ天產ヲ滅ナルニ不時ノ天災ニヨリテ續毒ノ文字ヲ避ケ事更ラニ故ノ陸奥宗光氏ノ轍ニ習ヒシ答辯ヲ爲シタルハ如何

右及質問候也

粗漏無責任ノ答辯ニ對スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 田中正造

贊成者 原田赴城

外四十名

質問主意書

第十四議會ニ於テ議員門馬尙經氏ノ質問答辯書ニヨルニ「千葉縣銚子港附近及東京江戸川河口ニ於テハ水族ニ影響アルヲ聞カス且ツ其事實認ムヘキモノナシ」トアル然ルニ江戸川河口品川砲臺東方ニ於テ洪水ニ際シ續毒ノ流下スルヲ以テ牡蠣ノ繁殖ヲ妨ケ銚子港ニ於テハ續毒事件以來全然牡蠣ノ繁殖ナキハ是レ事實ノ顯著ナルモノ然ルニ是ノ答辯ニヨリ續毒主ヲ偏愛シ故陸奥宗光ノ轍ニ習フハ如何  
一 第十四議會ニ於テ議員門馬尙經氏提出質問答辯書ニヨルニ「目下ノ調査ニ於テ茨城千葉兩縣ニ於テハ將來續毒被害ノ爲メ免租トナルヘキ見込ノ土地ナシ」然ルニ兩縣下ニ於テ被害日ニ甚シク其顯著ナル事實ハ葉煙草ヲ燃焼セハ固結銅塊トナル是レ政府者ノ怠慢竝ニ續毒隱蔽鐵主庇護ノ甚シキモノ是如何  
右及質問候也

第十四議會ノ質問答辯ニ對スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 田中正造

賛成者 原田 赴城 外四十名

質問主意書

第十四議會ニ於テ議員田中正造提出左ノ質問  
院議ヲ無視シ被害民ヲ毒殺シ其請願者ヲ撲殺スル義ニ付質問書  
右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 田中正造

賛成者 本間 直 外百十六名

質問主意書

第十三議會ニ於テ緊急ナル兩院ノ議決ヲ無視シテ多クノ被害民ヲ毒殺シ  
亦多クノ臣民ヲ打殺スル等ノ一大事實アリ如何  
右及質問候也

警察大勢兇徒ヲ以テ無罪ノ被害民ヲ打撲シタル義ニ付質問書  
右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十四日

提出者 田中正造

賛成者 本間 直 外百十六名

質問主意書

一昨十三日午前十一時頃ト覺ユ上野國邑樂郡佐貫村ト申ス所ニ於テ地方  
警察官大勢「サーベル」ヲ以テ鐵毒被害民數十人ヲ歐打セリ内負傷者山  
崎銈次郎同日午後十二時着京直ニ芝口警察署ニ訴出目下疵口治療中ニ  
候而シテ負傷ノ人數死生ノ程モ未タ詳カナラス

一加害者古河市兵衛ノ徒數十人警察ノ服ヲ裝ヒ巡查ヲ煽動シテ被害民ヲ  
威嚇シ且此暴舉ニ出被害民ヲ暗殺センコトヲ謀リタルモノナリト云フ  
一被害民ハ常ニ身ニ寸鐵ヲ持セス、然ルニ警官却テ兇器ヲ以テ貧弱ニシ  
テ病軀ナル窮民ヲ殺傷シ此殘逆ヲ恣ニスルハ如何  
右質問ニ及候直ニ答辯ヲ求ムルモノ也  
ニ對シ左ノ答辯アリ

質問主意書

衆議院議員田中正造君提出大勢兇器ヲ以テ無罪ノ被害民ヲ打撲シ  
タル義ニ關スル質問主意ニ對スル答辯書  
第一項 群馬縣邑樂郡佐貫村ニ於テハ質問ノ如キ事實ナシ山崎銈次郎ハ  
警察官ノタメニ負傷シタルニ非スト認ム

質問主意書

衆議院議員田中正造君提出院議ヲ無視シ被害民ヲ毒殺シ其請願者  
ヲ撲殺スル義ニ關スル質問ニ對スル答辯書  
質問ノ如キ事實ヲ認メス  
ト然リト雖モ答辯書ノ明文ニ反シ加害被害ノ事實顯著ナルハ如何  
右及質問候也

鐵毒ニ付無責任ノ答辯ニ對スル質問書  
右成規ニ據リ提出候也

官報號外 明治三十四年三月二十日

衆議院議事速記録第十五號 議長ノ報告

明治三十四年三月十九日

提出者 田中正造

賛成者 原田 赴城 外四十名

質問主意書

第十四議會田中正造提出「足尾銅山鐵毒問題」ノ請願ニ付行政政府カ帝國議會  
ノ議決ヲ重シセス且ツ多年議院ノ質問ヲ輕シシ及鐵毒被害民ヨリ公然奉呈  
セル諸般ノ請願ヲ度外視シ却テ不正鑛業者ニ過謀シテ鐵毒ヲシト云ハ或ハ  
鑛毒ヲ豫防セリト云ヒ終ニ兩院ノ議決ヲモ無視シ及口被害民ヲ毒ニ殺サシ  
メタル質問書ニ種々ノ證據ヲ掲ケアルニ一政府ハ帝國議會ノ議決ヲ蔑視  
シタルコトナク其過付ニ係ル請願ニ付テモ調査及處分ノ進行ヲ怠リタルコ  
トナク其他質問ノ如キ事實ヲ認メス」ノ答辯アルニ質問ノ事實顯然ニシテ  
議會議決ノ方ヲ行ハス從テ調査ヲ怠リ爲メニ本議會ニ於テモ議員ノ督促ヲ  
受ケタルハ如何ナルコトゾ是ニ由テ考フルモ前答辯ノ無謀ナルコトハ明瞭  
ナリ是レ如何  
右及質問候也

一方ニハ河身ヲ浚渫シ一方ニハ共同水源山林ノ濫伐ヲ許可セシ義ニ付  
質問書  
右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 田中正造

賛成者 原田 赴城 外三十二名

質問主意書

一 渡良瀬川ハ利根川ニ入り利根川モ亦近年河底高ク埋マリ目下河身ノ浚  
渫ニ著手申ナルニ此水源數萬町ノ排下ヲナシ古河市兵衛ニ對シテ山林  
伐木ヲ許可シタル左レハ利根川ノ河底ハ之ヨリ塔々埋没シテ同川ノ破  
壞ヲ來タスヤ明ラカナルノミナラス渡良瀬川及其他ニ逆流シ兩川沿岸  
ノ町村ヲ漂流セシムルモ亦明ラカナリ其ノ自家撞著ノ事業ヲ許可シテ  
倍々被害ヲ大ナラシムル如何

二 明治三十三年二月十二日議員田中正造提出「山林排下ノ件」ノ質問書ノ  
答辯ニ由ルニ「下野國上都賀郡庚申山ノ西北ヨリ群馬縣ニ涉ル凡七里  
四方ノ國有林ニ於テハ明治二十九年及三十年中足尾銅山鑛業主古河市  
兵衛ニ立木ヲ排下タル事實ナシ」ト然ルニ現在古河ニ排下ケタル事業  
ノ顯著ニシテ伐木運搬道路ニ付テ松木村騷擾ヲ來タシ居ルニ非サヤ明  
ラカニ答辯セラレヨ

三 群馬縣利根郡東村字澤入官林ハ四里四方ニ渡ル渡良瀬川水源ニシテ從  
來官林ニアリシヲ去ル三十年農商務大臣大隈重信氏ヨリ足尾銅山ニ豫  
防命令ヲ發シ竝ニ水源涵養保安林實行ノ發令アルヤ俄ニ之カ不正ノ證  
書ヲ造リ私有山トナシテ農民某ニ伐木ノ權利ヲ得セシメ濫伐ヲ爲シタ  
ルコト

右及質問候也  
第十四議會ニ於テ議員田中正造質問書ヲ提出セシニ政府ノ答辯ナキヲ以  
テ再質問書  
右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十八日

提出者 田中 正造

賛成者 花井 卓藏

外四十二名

質問主意書

一第十四議會ニ於テ議員田中正造左記ノ質問主意書ヲ提出之處政府ノ答辯ナキヲ以テ及再質問候

政府ハ常ニ責任ヲ有セサル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

政府ハ鑛主古河市兵衛ノ人ヲ毒殺スルヲ願ミ今又警官憲兵ヲシテ多クノ人民ヲ負傷セシメ曾テ鑛毒被害ノ爲メ其ノ身體生命ヲ安全ナラシムルノ道ヲ講セス只管鑛毒被害民ヲ困ムルノ方針ヲ執リ其極法律ヲ濫用シ司法權ヲ妄用シ以テ良民ニ附スルニ兇徒ノ汚名ヲ以テシ斯クテ國家ヲ欺キ土地人民ヲ廢滅セシメ而モ猶ホ靦然其責ニ任スルノ意ナキ理由如何

鑛業ヲ停止セス地方制度ノ破レタルヲ回復セサル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

被害地ニアラスト雖モ町村費ノ不足ヲ告グルノ今日ニ當リ鑛毒激甚地ノ町村ハ悉ク地價ヨリ收入スヘキ町村稅ノ財源ヲ消滅セリ況ンヤ免租ヨリ來ル公民ノ權消滅シテ自治ノ制度ハ破壞セラレタリ且ツ縣會以下ハ爲メニ議員ヲ失ヒ村政爲メニ破レタルハ夙ニ政府ノ知ル處ナリ然ルモ明治三十一年ヨリ此破壞ノ町村ニ對シ何等ノ保護ヲ爲サス今日ニ之ヲ傍觀シ且ツ此ノ町村ニ對シ地方官ハ舊ノ如ク公務ノ依托ヲ迫ルカ如キ如何

數十萬人民ノ生業ヲ停止シテ之ニ害ヲ加フル鑛業主ヲ停止セサル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

一視同仁ノ御勅ニ背反スル事之レヨリ甚シキハナシ又國家經營ノ上ニ於テ在來ノ享有タル無量ノ天產及所有權ヲ始メトシ被害民ノ生命ヲモ刻ミ且ツ之ヲ殺傷シ尙且ツ鑛業ヲ停止セサルハ如何

各地森林拂下ケノ代金カ其伐木セル跡ニ苗樹ヲ植ユル經費ノ半額ニモ足ラサル怪ムヘキ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

甚シイ哉數百萬圓ニ價スヘキ山林ノ樹木ヲ僅カニ壹萬圓未滿ヲ以テ古河市兵衛ニ拂下ケタルハ政府ノ答辯ニ依リ明カナリ尙ホ國有山林ハ悉ク此ノ例ニ依ラサル者少ナシト云フ去ル明治十五年以來三十三年迄ノ拂下ケ人ノ姓名及段別百町以上ノ分其段別及ヒ收入代金等ヲ明ラカニ答辯アレ

流毒ノ根源ヲ止メス伐木ヲ禁セス河川ヲ破壞セシ儘ニシテ改築セサル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

一河底高ク埋マリ兩岸毒化シテ崩落日ニ甚シキヲ見ル之ニ對スル處置如何

多大ノ水產ヲ類廢セシメテ之ヲ回復セサル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一群馬枋木埼玉茨城千葉東京府ニ涉リ渡良瀬利根江戸川及ヒ銚子港ト東京灣ニ達スル本枝流又大小池沼ニ生活スル數萬ノ漁業者ヲ去ル明治十

二年ヨリ起算シ年々其生業ノ減滅セル其程度ヲ示セ

鑛業ヲ停止セス且ツ免租ノ繼年期ヲ許可セサル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

一免租ニ至ラサル田畑ヨリ今ハ銅化セル葉灰ヲ出スニ至レリ政府ハ何等ノ證據ニ依リテ有毒地ノ免租地ニ繼年期ノ許可ヲナサハルカ如何銅山附近渡良瀬川上流ノ水色依然舊ノ如ク清マラス常ニ毒色ヲ呈ス之レ凡眼ノ一目見テ以テ多毒ナルヲ知ル而モ尙ホ雛形ノ豫防工事ノ一角ヲ以テ銅山全體ノ功ヲ奏スルモノトシテ鑛毒ヲ停止セサルカ迄塞ノ氣候ト地勢狹隘トハ防クヘカラス如何

足尾銅山附近群馬縣澤入官林不正下ケ戻シノ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

一群馬縣澤入官林數萬町歩ヲ詐欺シ地元平民某ニ下ケ戻シタルハ事實ナリ而シテ其官林段別及ヒ下ケ戻スヘキ證據ノ不正ナルヲ下ケ戻シタル事

一大部分ヲ下ケ戻スヘキ事實アリトスルモ其地籍ヲ詐リテ數萬町歩ノ官林ヲ私シ之ヲ一個人ニ下ケ戻シタルハ當局大臣等カ下ケ戻シ願入ト結托シテ惡事ヲ爲シタルニハアラサル乎若シ然ラストセハ確證ヲ示サレシコトヲ望ム

國家歲出ノ分捕ヲ主義トシ人權ヲ無視セントスル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

一明治三十三年以來國費增加シテ三倍強トナリ國威振ハス民カ疲弊シ殊ニ鑛毒被害地ノ如キハ其ノ毒益々激甚ヲ逞フシ人畜死亡多キヲ加ヘ尙ホ且ツ之ニ腕力暴威ヲ以テ望ムハ如何

財源ヲ紊シ公私有ノ財產ヲ減シ而シテ歲入財源ノ不足ヲ唱フル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

一國家ノ財源タル廣大ノ山林ヲ捨ツルカ如ク與フルカ如ク拂下ケ且ツ之ヲ濫伐セシメ依テ洪水ヲ激甚ニシ依テ國家ノ大小河川ヲ破壞シ殊ニ甚シキハ足尾銅山ノ煙毒ハ廣大ナル諸山林ヲ枯凋シ山嶽ヲ瓦解崩落セシメテ河川ヲ埋メ破リ其ノ事實ハ無比無類ノ大害ナリ而シテ其銅山ヨリ流出セル鑛毒ハ上野下野武藏下總常陸ノ五洲ヲ橫斷シテ現形ノ六萬町歩ノ有租地ヲ砂漠ニ化シ去ラントシテ尙ホ侵害ノ將來ニ停止スル處ヲ知ラス如此無量ノ天產固有ノ田園ト人畜トヲ滅シ年々國土ノ資本ヲ減損シテ未タ加害ノ根源ヲ絶ツヘキナク尙ホ且ツ其山ヲ荒シ其毒ヲ流シ其水ヲ清メス其八ノ毒ニ殺シテ厭フナク之ニ對スルノ請願者ヲ殺傷シテ除害ノ事業ヲ願ミ且ツ日ク歲入財源ノ乏シキヲ如何セントノ理由如何

政府ハ多年鑛毒ノ人命加害ノ質問ニ對シ詐欺ノ答辯ヲナシタルノ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十二日)

政府ハ從來衛生被害ヲ認メスト答ヒタレトモ鑛毒地ノ小部分ナル町村十二字三十四個ニ付人口一萬八千中ニ於テ一千餘人ノ夥シキ毒死者ヲ出シテ而モ尙ホ之ニ驚カス内務省醫學士宮入某被害地ニ來リ此慘狀ヲ見テ頗ル同情ヲ表シタルニ當局諸大臣ハ足尾銅山鑛業主古河市兵衛ヨリ利益ノ分配ヲ受ケタル爲メ歟非命ノ毒死アルモ尙ホ且ツ人命ニ害ナシト誣ヒ

且ツ殘虐日ニ至ラサルナク履職權外ノ暴行ヲ爲シ終ニ被害民ヲ惱マシ傷メタリ既ニ今回ノ如キ白晝持兇器ノ大惡行ヲ爲シタルモノト何ヲ異ラシヤ之ヲ如何

故ラニ被害者古河市兵衛ニ緣故アル者ヲ地方官吏ニ任シテ被害民ヲ殺シ盡サントスル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一現ニ栃木縣書記官樺山某縣屬青木某ノ二人ハ被害民ヨリ不正ノ證書ニ調印ヲ取リタル者ナリ其他群馬縣知事ノ古河市兵衛ノ爲メニ奔走スルコトヲ始メ諸府縣警察吏等ヨリ町村駐在巡查ニ至ルマテ十中ノ七八人ハ被害者ノ雇人ニシテ表裏二重ノ月給ヲ取リツ、アリト聞ケリ此ノ如キ事情アルヲ以テ多年下情ノ上達セサル今同ノ橫暴モ又此古河市兵衛ノ奴隸タルモノ、惡意ニ出デタル可シ中央當局者果シテ克ク之ヲ探知シ得ルカ抑モ又知テ此惡事ヲ爲シタルカ

鑛毒被害民ノ病軀中ニアルコトヲ知リツ、之ヲ虐待セシ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一警察憲兵等ニ殺傷セラレタル被害民ハ悉ク病體ニアラサルハナシ警官憲兵ノ夙ニ知ルコトナリ己ニ人ノ毒ニ死スル多シトセハ生存者又病體ナラサルナシ此ノ病體ニ用ユル防寒具ヲ奪ヒ食料ヲ奪ヒ打撲殺傷シテ水中ニ投シ衣服ノ濡レタルヲ改メ寒氣ニ苦シマシメ亦之ヲ擄シタルノ後慘酷ニモ之ニ幾回トナク毆打ヲ加ヘタリ夫レ憲兵警官ニ命シテ惡事ヲ爲サシムル如シ抑モ古河市兵衛ヨリ何百何十萬圓ニテ此大惡事ヲ受負タル乎其實如何

政府ハ特ニ關八州ノ人民ガ從順ナルヲ侮リ各所ニ於テ無慮數十萬町歩ノ山林ヲ押領シ之ヲ愛スル所ノ緣故ニ與ヒ一方ニハ己ガ利欲ノ爲メニ六萬町步餘ノ有租地ヲ舉ゲテ砂漠トナスヲ憚ラス終ニ其被害民ヲ毒殺シ及殺傷セシ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一薩長藩閥ノ專橫此ニ至テ極マレリ此ク本國東方ノ土地人民ニ對スル殘忍我欲警フルニモノナシ今尙之ヲ改ムル能ハザルカ將タ倍其惡事ヲ增長セントスルカ

海外移住ノ勸誘ヲナシツ、却テ帝國本土ノ廢滅ヲ助成スル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一故ラニ本島ノ中央ニ於テハ多大ノ良土熟地ヲ不毛トシ砂漠トシ人畜ノ住居ニベカラサル魔境ヲ造リ之ニ住スルモノノ生命ヲ刻ミ太古ヨリノ住民ヲシテ住居ニ堪ヘザラシム如何

官吏我欲ノ爲メニ學理上ノ思想ヲ失ヒタル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一當局大小官吏十中ノ七八ハ皆此我欲ノ爲メニ自家ノ本領ヲ忘レ又自ラ本領ヲ破リ剩ヘ毒ヲ以テ多種ノ天產ヲ亡滅シ又人爲ヲ以テ人畜ヲ毒殺シ尙且ツ之ニ對スル請願者ヲ創傷シテ之ニ被ラシムルニ兇徒嘯聚ノ汚名ヲ以テスル如キ實ニ惑ヘル甚ダシキモノニアラズヤ

釐載ノ下ニ直接鑛毒ノ侵害アルヲ知ラサルカノ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一東京府ハ皇室ノ在所中央各省ノ存スル所殊ニ內務省衛生局並ニ大學醫學部ノ在所且ツ警視廳ノ在所ナリ其他國政發動ノ萬機皆聚

ツテ此府下ニアラザルナシ而シテ古河市兵衛ノ流出セシムル足尾銅山ノ害毒ハ今ヤ現ニ東京府下マテ侵入セリ而カモ猶直接人民ノ生命ヲ害スルヲ知ラサルカ

政府カ  
皇室ノ尊榮ヲ冒瀆シ憲法ヲ無視スルノ甚シキ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一陛下ノ赤子タル被害地ノ人民カ奸商古河市兵衛ノ爲メニ祖父傳來ノ家產ヲ蕩盡シ其骨肉ヲ殺傷セララル、ニ忍ヒス之レガ救済ノ道ヲ求ムルモ陛下ノ輔弼タル百僚官吏ハ憲法々々恩惠保護ヲ殊ニ被害民ニ限リテ與ヘサルノミナラス却テ時々暴威暴力ヲ以テ之ニ臨ミ自己ヲ利センカタメニハ憲法ノ全部ヲ破壞シ法律ヲ亂用シ法律以外ニ突出シ其民ヲ殺傷スル等之レ一視同仁ト勅セラレ給ヘタル

陛下ノ眞民タル一部ノ眞民ヲ虐待スルモノニシテ之レ陛下ノ聖旨ニ大ニ違ヒタルモノト云ハサルヘカラス之レ皇室ノ尊榮ヲ冒瀆スルノ甚シキモノト恐察ス如何

其源ヲ清メス其末ヲ修メントスルノ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一水源鑛毒各種ノ汚毒甚タ多クシテ本流渡良瀬川ノ水ハ常ニ毒色ヲ呈シ何人ト雖モ一目其多毒ナルヲ認メ得ヘシ之ヲ以テ下流多種ノ天產ヲ亡滅シ又人畜ヲ殺ス等皆此本流ノ毒水氾濫ニ基ヒセサルモノナシ若シ夫レ一朝風雨アレバ忽チ山嶽崩レ全山ノ毒物悉ク渡良瀬川ノ本流ニ投ス然ルヲ區々豫防工事ノ效能ヲ說キ以テ足レリトスルハ之レ全山ノ地形ト氣候ノ劇變及下流ノ地勢トヲ辨ヘス亦沿岸無量ノ天產ヲ顧ミサルモノナリ之ヲ如何

我等被害民ヲ救ヘヨ然ラサレハ是レニ死ヲ與ヘヨトノ請願ニ對シ暴行ヲ加ヘ殺傷セシメシハ何等ノ理由ニ出テタルカノ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一本期議會兩院ニ捧呈セル鑛毒被害民救助請願理由書ノ結文ニ曰ク「噫政府タルモノ宜シク今ヨリ後唯如何セハ足尾銅山ノ罪蹟ヲ隱蔽シ得ルカ又奈何セハ其鑛業ヲ曲庇シ得ルカ奈何ニセハ其責任ヲ免ルルヲ得ルカ奈何セハ我等被害民ヲ撲殺シ得ルカノ偏頗ナル心ヲ捨テテ此被害地人民ノ多年間毒ニ殺サレツ、アリシヲモ知ラサルヲ憐ミ奈何ニセハ之ヲ救助シ得ヘキカノ正理公道ニ基キ鑛然其精神ヲ改メ能ク條例ヲ履行シ以テ能ク法ヲ守リ以テ能ク水源ヲ涵養シ以テ能ク國家ノ田園ヲ保護スヘシ而シテ又山嶽ノ崩落ヲ防キ河川ノ流水ヲ清メ毒化セル河川兩岸ノ墜落ヲ止メ河身ノ破壞ヲ改造スヘシ若シ其樹木ノ濫伐ヲモ防グ能ハス水源諸山ニ苗木ヲ植ユルノ密ナル能ハスシテ完全ナル造林ノ目的ヲ達スル能ハス砂防工事ノ勵行ヲナス能ハス岩石土砂ノ放流ヲ禁抑スル能ハス下流ノ土質毒化シテ兩岸ノ墜落河底ノ埋沒セシヲモ復スル能ハズ尙ホ河身破壞ノ改築ヲ急グ能ハス民屋ノ毒河ニ漂フ劇變ヲ救フ能ハズ制度ノ破レタルヲ修ムル能ハス毒ノタメ停止セラレタル生業ヲ復活シテ公益ヲ保護スル能ハス悲慘ナル戸口ノ死滅ヲ救フ能ハス死

地ニアル我等窮民ノ急ナル請願ニ對シ之ヲ處分スル能ハス水ヲ清ムル能ハス天産復活ノ基ヲ開ク能ハス憲法ヲ守ル能ハス非命ニ墮レタル者ノ處置ヲナス能ハス權利ヲ全クセシムル能ハス生命ヲ救フコト能ハスシハ寧ロ我々殺セヨ言ハ軌ヲ脱シ語ヲ逸スル如キアルハ慘苦筆舌ノ及ハサルモノアレハナリ又誠ニ寸斷刻苦ノ慘ニ堪ヘサレハナリ致死ノ請願本書逐一採用セラレシムルハ我等鐵毒被害民ハ秩序順次ニ則リ自家ヲ救護スルノ道ヲ杜絶セラレタルモノナリ敢テ閣下ノ處決ヲ仰キ度候恐惶謹言トアリ又足尾銅山鐵毒被害民生命保護ノ請願書ハ明治三十二年二月八日山口縣熊毛郡田布施村四百三十七番屋敷平田勝馬枋木縣安蘇郡赤見村田儀重ノ二名ヨリ帝國議會ニ捧呈セシモノニシテ兩院ハ既ニ之ヲ政府ニ迴送セリ然ルニ政府ハ此請願書ヲ埋没シテ其處分ヲナサス而シテ多ク死者ヲ出シタル被害民ハ專ラ秩序ヲ履行シテ行政當局諸大臣及內閣法制局等ニ捧呈セル今閣下請願書ニモ被害地各縣ノ町村長數十名連署セシテ地方官ヲシテ先ツ其請願ヲ拒マシメ加之本月十三日群馬縣警官及憲兵ヲ利用シテ加害者古河市兵衛ノ爲メ其被害民ヲ創傷セシ理由如何

故ラニ良民ヲ殺傷スルヲ謀リタル義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一 埼玉縣北埼玉郡利島川邊兩村茨城縣猿島郡新鄉村群馬縣邑樂郡海老瀬村ノ四ヶ村鐵毒被害民ハ本年二月十三日合計凡六百八十九人生命保護ノ請願書ヲ相繼ヘ同日午前五時郷里ヲ出立同午前八時西佐貫村字川俣ヲ距ル二里ノ處ニシテ無事利根川ヲ南ニ渡リ更ニ行クコト二里ニシテ埼玉縣忍町警察署長警部佐藤浩吉巡査二十餘名ヲ率イ來リテ被害民ニ說諭スル處アリ即チ被害民ハ十名ノ委員ヲ撰ミ出京セシメ殘ル五百九十八人ハ歸途ニ就キ利根川ヲ北ニ渡リテ群馬縣警察官ト堤上ニ遭遇スルヤ警察署ハ理不盡ニ被害民ヲ打撲シ輕傷ヲ負ハサルモノナシ此ノ溫良ヲ證明スルニ足ルヘキ被害民ノ歸途ニ就クヲ見テ此ノ如キ暴虐ヲ加フ之ヲ以テ考フレハ數千ノ被害民ニ對シ暴行ヲ行ヘタルハ豫メ之レカ暴虐ノ準備アリシコト明カナリ之レ如何

鐵毒被害地無政府ノ義ニ付質問主意書(明治三十三年二月二十三日)

一 足尾銅山鐵毒被害地ハ多年無政府ナリ近クハ今同警吏ノ橫暴殺傷ノ如キハ無政府ヨリモ更ニ甚シク誠ニ之レ暗黒社會ナリ無政府ヨリ甚シキトモハ爾來被害民ハ直チニ加害者撲滅ノ方法ヲ講セサルヘカラス因テ此ノ被害民カ自家ノ爲メ國家ノ爲メ亦父母子弟ノ殺サレタルカ爲メ其仇ヲ酬ヘンカ爲メ亦損害賠償ヲ請求スルカ爲メニ無政府人民ノ權利トシテ大勢號呼加害者ニ對スルノ運動劇烈ヲ呈スルニ至ラハ曩日ノ無政府ハ直ニ有政府トナリテ其政府ハ直ニ加害者ヲ出底シテ被害民ヲ苦シムルカ如キ之レ政府ハ恰モ無キカ如ク亦有ルカ如シ若シ政府有リトモハ何故ニ被害者ノ死命ヲ救ハスシテ却テ之ヲ殺傷セシカ之レ政府無キニ如カサルナリ亦政府ナシトモハ何故ニ被害民ニ對シ法律ヲ濫用シテ法律以外ニ突出シテ無罪ノ被害民ヲ撲殺セルカ或ハ亦父母毒ニ死シテ

悲ムヘキニ巡査ハ日夜弱者婦女子ヲ威シテ恐怖セシメ亦請願人ノ集合ヲモ許サス而シテ農商家業ニ就ク能ハサシムル程ニ加害者ノ間諜タル俗吏ヲ被害地ニ放チテ陰謀誹謗無心ノ良民ヲ惱マシテ止マサルカ如キコトヲナスカ被害地ニ一部分ノ調查ニテモ一千有餘人ノ非命死者ヲ出セル程ノ悲惨ニ陷レラレ居ルト雖モ怪ムヘキ哉警察吏ノ一人トシテ之ニ注意ヲ與ヘシモノナシ嗚呼亦甚シカラスヤ又被害地ノ警察吏巡査ハ古河市兵衛ノ間諜ニアラサルモノ殆ント稀ナリト云フ依テ被害民ハ速ニ交送セシメテ此原被ノ官民ヲ雜居混同セシメ日夜ニ通シテ此ノ病軀ノ窮民ヲ虐待セシムルカ

右ハ第十四議會ニ於テ質問セシモ政府ノ答辯ナキヲ以テ及再質問候也

勅語ニ關スル質問書  
明治三十四年三月十九日  
提出者 安部 井 鑾 根  
贊成者 早川 龍 介  
外二十九名

質問主意書  
明治三十三年十月三十日下賜ル 勅語ニ對シ近來數種ノ新聞雜誌ニ顯レシ所ノ撤回說ナルモノアリ實ニ恐懼ニ堪エサル次第ニシテ不聞ニ置ク能ハス依テ之カ事實ノ有無ヲ糾シ明答アラント望ム

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ會議ヲ開キマス——千田軍之助君  
○田中正造君(二百二十九番) 議長チヨット——先刻提出致シマシタガ、其質問書ガ一通落チテ居ルヤウデスカラ、チヨット後マデ宜シウゴザイマスカラ……

○議長(片岡健吉君) 尙ホ注意致シマセウ

○千田軍之助君(二百五十四番) 諸君、私ハ高等學校及大學増設ニ關スル質問書ヲ提出致シタ一人デゴザイマス、提出者一同ニ代リマシテ、簡短ニ其理由ヲ述ベヤウト存ジマス、諸君モ御承知ノ通り、此日清戰役後、國家百般ノコト膨脹擴充シ、若ハ改良進歩シツ、アルコトデアリマス、斯ノ如キ形勢デアリマス故ニ、町村ノ負擔ニ關スル小學校教育ノ如キモ、明治二十五六年ニアリマシテハ、其經費僅ニ七百萬圓バカリデアッタノガ、今日ハ二千萬圓以上ニ達シテ居ルデアリマス、又中學ノ如キモ、明治二十五六年ニ在リマシテハ、其校數僅ニ五十校バカリデアリマシタノガ、今日ハ二百校以上ノ多キニ達シテ居ルデアリマス、斯ノ如ク普通教育ガ、即チ地方ノ自治ニ關スル所ノ普通教育ガ、普及發達シテ居ルデアリマス、ウレニモ拘ラズ、政府ノ責任ニ關スル、即チ中央政府ノ直轄ニ關スル所ノ高等教育ノ設備ガ、非常ニ後レテ居ルデアリマス、ウレガタメニ此日本ノ即チ我國ノ教育上ニ、如何ナル影響ヲ及ベテ居ルカト云フコトヲ、調査致シテ見ルノニ、實ニ慨嘆ニ堪ヘヌ實況デアリマス、諸君モ御承知ノ通り、昨三十三年ハ中學校ノ卒業生ハ一萬四千人以上デアッタアル、其中進テ高等學校ニ這入り、大學ニ這入ラントスル者ハ四千八百人アラタアル、所ガ其四千八百人中デ、千五百人ト云フ者ハ、入學

ヲ許サレタデアリマスケレドモ、後トノ二千五百人ト云フモノハ、學力ガ入學スル學力ガアルニ拘ラズ、之ヲ收容スベキ學校ノナイタメニ、落第ト云フ汚名ヲ被ラシテ、排斥シテシマッタデアリマス、然ラバ其他ニ何カ高等學校ニ這入ル學校ガアルカト言ヘバ、是レ亦學校ガナインデアアル、今年ハ又中學ノ卒業生ハ、昨年ヨリ一層多イ方デアリマス、即チ今年ハトウシテ見テモ、一萬五六千乃至七八千ノ卒業生ハアル、サウシテ見ルト、是レ亦其中デ進デ高等學校ニ這入り、大學ニ這入ッテ、專門學ヲ修メヤウト云フヤツガ、少クモ五六千人ハアル割合デアリマス、然ルニ是レ亦收容スベキ學校ガナイタメニ、僅ニ二千五六百人位ハ、入學ヲ許サレルデアリマスケレドモ、後トハ學力ガアルニモ拘ラズ、是亦落第ト云フ汚名ヲ被ラシテ、學校ガナイタメニ、排斥ヲセシケレバナラヌデアリマス、諸君、此中學校ノ卒業生ノ中、進デ高等學校ニ這入り、大學ニ這入ッテ、專門學ヲ修メヤウト云フ者ハ、國民中ノ粹中ノ粹ナル者デアッテ、他日國家ノ精神骨髓ト爲ルベキ人材デアアリマセヌカ、其人材ヲ學校ガナイタメニ、年々數千人宛排斥シテ往クト云フコトハ、吾々諸君ト共ニ國家ノ文明富強ヲ期スル上ニ於テ、一大遺憾ナコトデアアリマセヌカ(簡短ト呼フ者アリ)是ハ大事ナコトダ——最モ縱令一方ヲ排斥シツ、アツテモ、是マデ大學ヲ卒業シタ學生、及今後大學ヲ卒業セントスル學士ヲ以テ、我國社會各種ノ方面ノ需要ニ應ズルコトガ出來ルナラバ、ツレデモ幸抱ガ出來ルケレドモ、是マデ明治初年大學ヲ設立シテ、今日マデ出タ學士ノ數及今後出デントスル學士ノ數、實ニ僅々タルモノデアッテ、我國各種ノ方面ノ需要ニ應ズルコトガ出來ナイノデアリマス、試ニ需要ノ一二ノ例ヲ舉ゲテ見ルナラバ、我國ノ高等文官デハ一万人以上ハアルデアアル、其他民間ノ實業界ニ要スル理學士トカ工學士トカ云フモノハ、是レ亦數千人ノ多キヲ要スルデアアル、其他辯護士ノ如キモ、千五百乃至二千人ノ多キヲ要スルデアアル、新聞記者ニモ、千五百乃至二千人ノ多キヲ要スルデアアル、是レ亦殆ト通計スルト一万人居ルノデアアル、其他醫者ノ如キモ、吾等ハ統計ヲ關ベテ見ルノニ、我國ニ四万以上ノ醫者ガアルノデアアル、其他ニ又種々ノ專門ノ智識ヲ有スル者ヲ要スルモノヲ總計致スト云フト、殆ト六七万ノ專門ノ智識ヲ有スル者ガ入用デアアル、然レドモツレダケノモノヲ悉ク專門ノ學士ヲ要スルコトハ出來ナイケレドモ、セメテ此處五七年乃至十年ノ間ニハ、一萬五六千乃至二萬位ノ專門ノ學者ヲ、此社會ニ出スコトニセシケレバナラヌ、然ルニ大學アツテ今日マデ以來卒業セラレ居ル者ハ、僅ニ四千人デアアル、其中ニ今現在シテ居ル者ガ、三千人ホカナイノデアアル、今後卒業スル——東京大學ナリ京都大學カラ卒業スル者ハ、幾ラアルカト云フト、是レ亦年々數百人ホカナイ、今日ノ高等教育ノ組織デアッテハ、幾年經ッテモ日本ニ專門學士ト云フモノガ、五六千ヨリ多クハ出ナイノデアリマス、之ヲ軍隊ニ譬ヘテ見ルナラバ、日本ノ十二師團、近衛、此十三師團ノ兵隊ヲ適當ニ動スニハ、五千人ト云フ將校ガナクテハ動カナイノデアアル、然ルニ僅カ五六百人ノ將校ヲ備ヘテ、我國ノ軍隊ガ奮ハナイト云フコト、同ジコトデアアル、日本ノ今日ノ四千萬ノ中、中學以下ヲ假ニ下士ノ兵卒トスルナラバ、專門學ヲ修メタ者ハ、是ハ將校デアアルノデス、サウスルト少クモ一二萬ノ專門ノ學士ガナクテハ、此四千萬ノ國家ヲ運用シ發達サセセルコトハ出來ナイ、然ルニ僅ニ三四千ノ學士

ヲ以テ、國ノ發達ヲ圖ラント云フコトハ、マルデ日本ノ十三師團ノ兵隊ヲ勵カスニ、五千人ノ將校ガ入用デアアルノヲ、僅カ五六百人ノ將校ヲ以テ、我軍隊ガ奮ハナイト云フノト同ジ有餘デアアル、試ニ我國ト文明ヲ同ウスル所ノ英佛、獨逸、澳等ノ高等教育ノ組織ノ有様ヲ、私ガ調查致シテ見ルノニ、少イ所デモ大學校准大學ヲ合セテ二十校位アル、多イ所ハ三十校以上アル、サウシテ大學生ハ平生下ノ位アルカト云フト、少イ所デモ二萬乃至三萬ノ大學生ガ、始終學校ニ居ルノデアアル、多イ所ハ五六萬ノ大學生ガアル、サウシテ卒業生ハ下ノ位アルカト云フト、少イ所デモ四五萬——一國內ニ人口ガ四千萬アレバ、四五萬ノ卒業生、多キ所ハ八九萬、獨逸アタリノ如キハ殆ト十萬モアルノデアアル、サウシテ社會各種ノ方面ノ需要ニ應ジテ居ルノデアアル、ソコデ始テ國家ハ隆盛ニナル、是ハ我國ニ於テモ、此所一年ニ一二萬ノ智識ヲ備ヘタ學士ガナクレバナラナイガ、何年經ッテモ四五萬シカ出來ナイト云フ今日ノ組織デアアル、吾々ハ諸君ト共ニ東洋ノ世界ニ就イテハ、絶大ノ希望ト責任ヲ持ッテ居ルノデアアル、然ルニモ拘ラズ、國家ノ精神骨髓ト爲ルベキ高等教育ハ、今日ノヤウナ有様デアッテハ、國ノ隆盛ニ赴クコトヲ望ムノハ、百年河清ヲ待ツト一般、決シテ其目的ヲ達スル日ガナイト考ヘルノデアアル、政府部内デハ斯ウ云フ說ガアル、モウ日本ノ教育ハ進デ居ル位ダト云フ考ヲ持ッテ居ル人ガアル、ツレハ一體明治初年ニ比スレバ、專門學ヲ修メタ者ノナイ時代ニ較ベテハ、サウ云フ考、進デ居ルカハ知ラナイガ、吾々ハ諸君ト共ニ期スル所ノ國家ヲ作り出スニハ、確ニ不十分デアアル、ツレカラ第二ニ高等教育ヲ大ニ擴張セシケレバナラヌト云フ必要ハ認メルデアアルガ、金ガナイト云フコトヲ言フ者ガアルヤウデスケレドモ、決シテ此高等教育ハツシナニ金ヲ要スルモノデナイノデアアル、假ニ高等學校ヲ三校設ケルトスレバ、其經常費ハ十五萬圓——一校五萬圓デアアルカラ十五萬、此十五萬圓ノ中デ、殆ト四萬圓程ハ授業料ガアリマスカラ、十一萬何千圓アツタナラバ、高等學校ヲ三校設ケルコトガ出來ルノデアアル、ツレカラ大學二校ヲ設ケルニ附イテハ、經常費ガ七十萬圓イリ課デアリマスケレドモ、是トテモ國家ノ上カラ言ウタラ何デモナイ、即チ高等學校三校ト大學二校ヲ假リニ此年度ニ設ケルトシタ所ガ、八十萬圓程ノ金ガアツタラ宜イノデアアル、其他建築費ハ兩方デ三百萬圓カ四百萬圓程、高等學校大學デ掛ルケレドモ、是ハ又十年ヲ期シテヤレバ宜シイ、十年間ノ支出シテ宜イノデ、年々三四十萬圓デアアル、是レ亦獨リ國庫負擔シナクトモ、其設立スル地方ニ對シテ、獎勵其宜シキヲ得タナラバ、高等學校ノ所ハ全部デモ寄附スルコトニナリマス、サウスルト經常費ハ僅ニ九十萬圓デアアル、是位ハ日本ノ今日ノ財政ノ上カラ云ッテハ、何デモナイコト、考ヘル、諸君、現ニ此罪人ヲ容ル、所ノ獄舎ノ建築デアアル、此獄舎ノ建築ニモ既ニ三十四年度ニ於テハ、五箇年ノ繼續費トシテ、百五十萬乃至二百萬圓ノ大金ヲ支出シテ居ルデアリマセヌカ、此調子デアレバ來年度即チ三十五年度ニ於テモ、每獄舎建築二百五十萬乃至二百萬ノ金ヲ出スノデアアル、罪人ノタメニコ、七八年乃至十年ノ間ニ、殆ト一千万圓ノ金ヲ出スノデアアル、然ルニ國家ノ精神骨髓ト爲ルベキ所ノ、高等教育ニ、年々八十萬乃至百萬ノ金ヲ出セナイト云フコトハ、私ハ決シテ承知ノ出來ナイコト、考ヘルノデアアル、第三ニハ高等學校ノ擴張スルコトノ必要ハ認メテ居ルガ、教員ガナイト、斯ウ云フケレドモ、

是レ亦採ルニ足ラヌ議論デア、初メ東京ノ大學ヲ設クルトキ、又兩三年前  
京都大學ヲ設クルトキ、又岡山ニ高等學校ヲ設クルトキ、之ニ對シテ東京ノ  
教員、京都ノ教員、岡山ノ教員デアルト云フモノハ、決シテアツタ譯デハナ  
イ、色々都合シタノデア、今日ト雖モ斯ウ云フ國家全體カラ打算シテ、高  
等學校ヲ擴張スル必要ガアリトシタナラバ、教員ハ是マデノ大學ノ卒業生ナ  
リ、海外ノ留學生ナリ、其他種々ノ方面カラ都合スレバ、足リルコト、思ヒ  
マス、サウシテ足ラヌケレバ、當分海外カラ外國人ヲ雇フテモ宜シイノデア、  
教員ガナイカラト云ウテ、決シテ國家必要ノ擴張ヲ躊躇スルコトハ、出來ナ  
イト考ヘルノデア、聞ク所ニ據ルト、此高等教育ノ擴張スルコトニ附イテ  
ハ、代々ノ文部大臣ハ甚ダ熱心デアレドモ、今マデノ内閣ノ中ニ、一種  
妙ナ説ヲ持ツテ居ッテ、免角之ヲ抑制シテ居ルト云フコトヲ聞イテ居ル、現在  
現今ノ文部大臣モ、此高等教育ノ擴張ニ附イテハ、熱心デアラウト思フ、又  
現内閣ノ中ニハ決シテ從前ノ内閣ノヤウナ、考ヲ持ツテ居ル御方ハ、ナイデ  
アラウケレドモ、前刻カラ述べタ通非常ニ此高等教育ノ設備ガ不十分デア  
ルタメニ、國家ノ精神骨髓ト爲ルベキ青年ヲ年々數千人排斥シテ居ルニモ拘ラ  
ズ、此明治三十四年ノ豫算ノ中ニ、高等學校増設及大學ノ増設ガアリマセ  
カラ、茲ニ質問書ヲ提出シタ次第デアリマスガ、速ニ此三十四年度ノ追加豫  
算トシテ、高等學校三校バカリ、大學一二校、増設ノ豫算ヲ出ス政府ガ決心  
ヲ持ツテ居ルヤ否ヤ、若シ又其決心ヲ持ツテ居ラヌケレバ、前來モ述べタ如  
ク、非常ニ日本ノ高等教育ノ設備ガ不十分デアル故ニ、私ハ如何ナル方法ヲ  
以テ、政府ハ其責任ヲ全フスルノデア、其邊ヲ承リタイノデア、尤モ  
質問書ハ三箇條ニ分レテ居リマスケレドモ、其事柄ガ相關聯シテ居リマス  
ラ、先刻カラ述べマシタノハ、三箇條ニ對スル理由デアリマス、ウレデ速ニ  
政府ハ三十四年度ニ於テ追加豫算トシテ、高等學校二三校、大學一二校、増  
設ノ案ヲ出サル、決心ガアルヤ否ヤ、若シナイナラバ先刻來述べタ通、甚シク  
地方自治ノ普通教育ハ非常ニ發達シテ居リマスケレドモ、政府ノ責任ニ屬  
スル高等教育ガ、非常ニ後レテ居ルガ故ニ、國家全體ノ發達ヲ害スル譯ニナ  
テ居リマスカラシテ、如何ナル方法ヲ以テ、將來政府ハ此責任ヲ完ウスル  
ノデア、此邊ヲ承知シタイノデア、先ッ此邊デ……

○議長(片岡健吉君) 福田久松君

(福田久松君演壇ニ登ル)

○福田久松君(百九十九番) 一體、昨日モ御邪魔ヲ致シマシテ、今日ハ重大  
ナ議案モゴザイマスルデ、成ルベク簡單ニヤリマス、殊ニ私ノ御聽ヲ願フ  
ハ、孰モ算盤ノ御話デ、御聽惡ウゴザイマスルガ、併ナガラ私モ年來是ハ持  
論デゴザイマス、昨年ニモ出シタイト思フテ居ルノ今日マデ控ヘテ居ッテ、  
已ムラ得ズ出シマシタノデ、茲ニ調ハ是ダケ持ツテ居リマスガ、ナカノ之  
ヲ申上ゲルト御邪魔ヲ致シマスカラ、極端摘マシテ簡短ニ致シマス、ウレデ  
諸君、私ノ質問書ハ此煙草ニ關係致シマスル質問書デ、即チ我邦デハ戰後ノ  
經營ト稱ヘ、明治二十九年ニ此煙草專賣法ト云フモノヲ拵ヘテ、以來實施  
致シマシタ、其結果ガドウデアルト申シマス、誠ニ昔ハ爺サン婆サンノ使料  
デゴザイマシタガ、併ナガラ近頃ハナカノ需要ガ多ウゴザイマス、今年等

デモ殆ド七千万圓、八千万圓ノ需用ガ、年々アルノデゴザイマセウト思ヒマ  
ス、今四五年ヲ出デスシテ十萬ノ上ヲ越スモノト、確ニ私ハ信シテ居リマ  
ス、ウレガ故ニ今日政府ハ財政ノ整理ヲスルトカ、行政ノ整理ヲスルトカ云  
フ際ニ至ッテハ、私ノ考ヘマスル所ニ依リマス、ト云フ、此煙草ト云フモノ  
ハ、今日既ニ結構ナ財源ニナッテ居ルニモ拘ラズ、四五年ヲ出デザル中ニ、大  
ナル我財源ニナラウト私ハ信シテ居ル、即チ重ナル租稅ノ中ノ五カ六ノ中ノ  
一ニナラウト、私ハ思フノデゴザイマス、斯ク結構ナ財源デア、ルニモ拘ラズ、  
今日ノ煙草專賣法ト云フモノヲ實施シテ置イテ、煙草ノタメニ甚ダ不結果ナ  
現象ヲ見ルト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ堪ヘタコトデアラウト、私ハ思フノデ  
ゴザイマス、ウレ故ニ先ッ煙草專賣法實施以來經過ノコトヲ少シク御聽キ  
願ヒマシテ、私ノ(簡短々々)質問ノ要領ヲ略シテ願ヒタイト呼フ者アリ  
略シマス、併ナカラ其様ニ略シマスルト云フコト、要領ハ少モ得ナイ、寧ロ  
セヌ方ガ宜イ、若シ諸君ガ簡短ニシロト仰シタルナラバ、尙ホ長クヤル、  
若シ短クヤレト云ハナケレバ、短クヤリマス、ウレデ諸君、此煙草專賣法ハ實  
施ノトキノ見込ト、其實施以來ノ見込トハ、段別其他ニ於テ澤山ノ相違モゴ  
ザイマス、併ナガラウレハ餘程事實ノ問題デ、研究モ餘程要サナケレバナ  
リマセヌガ、免角其我邦ノ煙草ノ耕作ノ段別ト申シマスルモノハ、現今免  
角三万町内外デアルト云フコトハ、確ニ認メ得ルコトガ出來マセウト、私ハ  
思フノデゴザイマス、ウレデ此煙草專賣法實施以來ノ段別ヲ檢査シテ、段別  
見マスルト云フコト、三十年ガ二万六千餘町歩、三十二年ガ二万六千餘町歩、  
三十二年ガ四万二千餘町歩、其次ガ三万七千餘町、即チ昨年ハ二万六千  
步デゴザイマシタ、此統計カラ據リマシテモ、三万町歩内外煙草ノ耕作ガ出  
來ルト云フコトハ、確ニ目的ハ立ツト思ヒマス、而シテ其煙草ノ三万餘町歩  
ノ上カラ、ドレダケ收穫ガアルカト申シマス、一段歩四十貫目取ッテモ三  
四——千二百萬貫目ハ穫ラレルノデゴザイマス、ウレデハ極大略ノコトダ  
ケヲ申述ベマスデゴザイマスガ、昨年ト一昨年ノ專賣局ノアル所ノ實收ノ結  
果ガドウデアアルカト申シマス、利益ヲ差引キマシテ、六百萬圓内外ノ利  
益シカ、ゴザイマセヌデゴザイマス、所ガ煙草專賣法實施ノ當時ハ、千三百  
有餘萬圓ノ實收額ヲ望シタモノガ、僅ニ六百萬圓シカ利益ガゴザイマセヌデ  
アリマス、誠ニ是ハ此專賣法ヲ實施シタル甲斐モナイノデア、ト思ヒマス  
ノデ、葉煙草專賣法以前ノ印紙稅ハ、ドレダケ上ッテ居ルデ、直グ前年度ハ  
四百有餘萬圓上ッテ居ル、今日ノ需要ハ二分一ハ殖エテ居リマスカラ、此三  
分一ヲ加ヘマスルト、既ニ此葉煙草專賣法實施以前ノ六百萬圓ノ收入ハ、確  
ニアルト云フコトハ言ヘルノデゴザイマス、ウレノミナラズ此葉煙草專賣  
法ト云フモノハ、計算ノコトハ、簡短ニヤレト云フ仰デゴザイマスカラ申  
マセヌガ、此小サイモノヲ慮メテ、大キイモノヲ助ケルト云フ、總テノ方針  
ニナッテ居ルノデゴザイマス、御承知ノ通葉煙草專賣法ヲ實施シタキニハ、  
製造稅ト云フモノハ十五圓掛ケタガ、十五圓デハマダ小サイ製造家ガ倒レマ  
セヌカラ、是ハ五十圓ニスルガ宜カラウト、五十圓ニ製造稅ヲ殖シテ、小サ  
イ製造業者ヲ倒シテシマッテ、殘ルモノハ大キナ製造業者バカリ、殘ッテシマ  
タノデゴザイマス、而シテ此大キイ所ノ製造業者ハ、ドウシテアルカト申  
シマスルト、十三議會ニハ五十圓ノ製造稅ヲ掛ケタカラ、小サイ者ハ皆倒レ  
テ吾々ハ萬歲ト云ッテ、祝杯ヲ舉ゲタ結果ハ、直グニ外國カラ大キナ煙草會社

ガ入テ來マシテ、之ヲ買收スル、御承知ノ通、村井兄弟商會ト云フモノガ、外國ノ製造會社ニ買收セラレ、木村商會ト云フ人モ買收セラレテ、今日ハツレノ會社ニ交渉シツ、アルト云フコトヲ、確ニ聞イテ居ル、將來誠ニ望アル此業ヲ、ムザノ外國ノ某會社ニ占領セラレ、併吞セラレルト云フハ、今日ノ現狀ニナツテ居ルノデゴザリマス、而シテ最前モ申上ゲマシタ通、ナカク此煙草ノ需要ト云フモノハ少イモノデゴザリマセヌ、蓋シ本年カラハ七八千萬圓ノ需要ハ、確ニアルト思ヒマスルガ、其中今申上ゲマシタ某會社ノ如キハ、三分一製造スルト致シマシテモ、二千萬圓若クハ三千万圓ノ製造高デゴザリマス、二千万圓三千万圓ノ製造高ノ中、一割儲ケラレテモ三百万圓、而シテ煙草ノ製造ト云フモノハ、一圓ノ資本デ掛ルト二圓ニナル、即チ折返シノ利益ガアルモノデゴザリマスカラ、若シ三千万圓ノ煙草ヲ製造シマスルハ、三千万圓ノ利益ヲ得ラレルノデゴザリマス、諸君、此三千万圓ノ利益ノ金ハ、何處ニ持ッテ往カル、ノデゴザリマセウ、輸入超過、輸入超過、正貨流出、正貨流出ト云ウテ、世ノ中ノ人ハ大變驚イテ居リマスガ、煙草ノ中諸君ノ御銘々ノ中デ、煙ニシテシマツテ、其間ニ二千万圓、三千万圓ノ金ヲ持去ラル、コトハ、近キ將來ニ在ルト云フコトハ、今日ヨリ大ニ氣ヲ附ケナケレバナラヌコトデアラウト、私ハ思フノデゴザリマス、誠ニ今日緊急ナ議事モゴザリマス際ニ、此案ヲ提出致シマシテ、モウ少シ詳細ニ述ブレコトガ出來ナイト云フハ、誠ニ残念デゴザリマスケレドモ、免モ角是レハ今日ノ財政ノ整理、行政ノ整理ナドヲスルト云フトキニハ、政府モ宜シク茲ニ注目シテ、煙草ト云フモノハ、將來ハドレダケノ稅源ニ發達スベキモノデアアル、今日ドレダケノ現狀ニ陷ッテ居ル、外國人ノタメニ煙草ノ業ト云フモノヲ、占領セラレテハナラヌト云フコトニ、御注目アラシコトヲ、私ハ茲ニ希望致シマスルノデゴザリマス

○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ議ニ移リマス、第一鐵下年期新開免租年期地價据置年期ノ延長ニ關スル法律案、貴族院回付

一 鐵下年期、新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル法律案(政府提出、貴族院回付)

(早川龍介君演壇ニ登ル)

○早川龍介君(二百一十一番) チョット此回付案ニ附キマシテ、一言申シマス、此鐵下年期ノ回付案ニ、貴族院デ又ハ地味ノ熟否ト云フ六字ヲ本文ニ挿入セラシマシタ、是ハ既ニ委員會ニ於テ種々議論モアリ、又委員會ノ報告ノトキニ、諸君ニ其事ヲ申上ゲテ置キマシタガ「事業成效」ダケデハ、ドウモ甚ダ不完全デアアルカラ、地味ノ熟否モ之ニ挿入シタイト申シマデハ、政府委員ガ申サレルニハ、此四字ヲ以テ總テテ含蓄シテ居ルカラ、是マデ政府ノ取扱上ニ於テ、妨ナイト云フコトデアリマシタカラ、本文ニハ一向委員會デハ手ヲ著ケズ置キマシタ、即チ衆議院デ修正ヲ致シマシタ所ニハ、貴族院デハ少シモ手ヲ著ケヌコトニナツテ居リマス、而シテ此方デ大ニ注意ヲ致シマシタ事業成效ノ下ニ「又ハ地味ノ熟否」ノ六字ヲ加ヘマシタノデゴザリマスカラ、即チ最初此方懸念ヲ致シテ、希望ヲ致シタ文字ガ、貴族院ニ參リマシテ入ッテ參ッテモ、同様ニ相成リマシテゴザリマスカラ、ドウゾ此案ハ此回付案ヲ直ニ御認メアラシコトヲ、偏ニ希望致シマス

(贊成々々)ト呼フ者アリ

○恆松隆慶君(百二十六番) 是ハ異議ハアリマセヌ、貴族院回付ノ通り、滿場一致ヲ以テ議決ヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 貴族院ノ修正ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス、議事日程ノ第二水害地方田畑地租免除ニ關スル法律案、貴族院回付

二 水害地方田畑地租免除ニ關スル法律案(政府提出、貴族院回付)

○恆松隆慶君(百二十六番) 是ハ貴族院ノ修正ハドウモ同意ガムツカシイデゴザリマス、何ゼナレバ此水害地方田畑地租免除ニ關スル法律案ト云フモノニ、本院ハ蟲害、風害、旱害ト云フモノヲ挿入シテ、既ニ可決シタノデゴザリマス、是ハ議員カラ段々法律案ガ出マシテ、其法律案ヲ取ッテ政府案ヲ原ニシテ、修正ヲ加ヘテ可決シタノデゴザリマス、之ヲ今貴族院ノ修正通ニナリマスルト、現ニ昨年被害ヲ受ケタ土地同一ノ被害デナイコトニナル、是ハ貴族院ノ修正ニ、成ルベク同意致シタノデゴザリマスガ、已ムヲ得ズ此場合ニ是ハ否決ト致シマシテ、兩院協議會デ、ドウカ相當ナコトニ致シタイコトヲ望ミマス

(贊成々々)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 貴族院ノ回付案ニ同意スルヤ否ヤノ採決ヲ致シマス、貴族院ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無

○議長(片岡健吉君) 同意シナイコトニ決シマシタ、就イテハ協議會ヲ求メルコトニナラウト思ヒマスガ、此協議會ノ委員ハ十名ヲ、議長ガ指名シテ御異議ハゴザリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通り致シマス、議事日程ノ第三生絲検査所法中改正法律案ノ第一讀會——議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、藤田政府委員

三 生絲検査所法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

生絲検査所法中左ノ通改正ス

第一條 削除

附則 本法ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員農商務總務長官藤田四郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(藤田四郎君) 此法律ハ、詰リ第一條ヲ削除ヲ致シマスノデ、別段此一條ガアリマシテモナクテモ、生絲検査所ヲ設立シテ、將來引續キニ何等ノ支ヘガゴザリマセヌカラ、此際之ヲ削除致シタイト云フノデアリマス

○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザリマセヌバ、議事日程第四審查委員ノ選舉デアリマスガ

四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百二十六番) 九名ノ審查委員ヲ、議長指名ニ願ヒタイ

○議長(片岡健吉君) 九名ノ審查委員ヲ議長ガ指名シテ、御異議ハゴザリマ

セヌカ  
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス——議事日程第五馬匹去勢法案、貴族院送付、第一讀會議案ノ朗讀ヲ省略シマス、和田政府委員

五 馬匹去勢法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

馬匹去勢法

- 第一條 牡馬ニハ去勢ヲ行フ但シ種牡馬ハ此ノ限ニ在ラス  
第二條 牡馬ニシテ種牡馬タルヘキ資質アリト認メタルモノニハ頭數ヲ限リ去勢ノ施行ヲ猶豫ス  
疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認メタルモノニハ去勢ノ施行ヲ猶豫スルコトヲ得  
第三條 牡馬ノ去勢年齡ハ明ケ三歳トス  
去勢ハ春期又ハ夏期ニ於テ之ヲ行フ  
第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル牡馬ニハ去勢年齡ニ拘ハラズ去勢ヲ施行ス但シ明ケ十五歳以上ノモノハ此ノ限ニ在ラス  
一 去勢ノ施行ヲ猶豫シ其ノ他已ヲ得スシテ去勢ヲ施行スルコトヲ得サリシ牡馬ニシテ其ノ事由消滅シタルモノ  
二 去勢年齡ヲ經過シタル牡馬ニシテ本法施行後本法ヲ施行セサル島嶼ヨリ牽キ入レ又ハ外國ヨリ輸入シタルモノ  
三 本法施行ノ際去勢年齡ヲ經過シタルモノヲ除クノ外種牡馬ニシテ検査合格ノ證明ノ效力ヲ失ヒタルモノ  
第五條 牡馬ニシテ去勢施行ノ爲斃死シ又ハ從來ノ用途ヲ變更若ハ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ償金ヲ與フヘシ  
第六條 去勢施行ノ費用ニ關スル規定並前條償金ノ査定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第七條 牡馬ノ去勢ノ施行ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第九條 本法ハ種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ施行セス  
(政府委員農商務省農商務局長和田彦次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(和田彦次郎君) 本案提出ノ理由ヲ簡短ニ一言致シマス、是ハ二箇ノ理由ヨリ致シマシテ、提出致シマシタ、一ハ御承知ノ如ク、我國ノ頑強ナル馬匹ノ性質ヲ矯メマス、又一ハ種牡馬ヲ絕對的ニ精選致シマシテ、現行ノ種牡馬検査法ト相待ツテ、改良ヲ完カラシメンコトヲ期スルノデ、而シテ本案ヲ實施致シマスル上ハ、農業及運搬用ニ供用致シマスル所ノ馬匹ハ、最も柔順ニナリマシテ、其營業者ニ向ツテ至便ナル利益ヲ得マスルノデゴザイマス、尙ホ國家多事ノトキデゴザイマシテ、或ハ徵發馬ヲ要スルヤウナ場合ノゴザイマシタ際ハ、最モ陸軍等ニ於キマシテ、非常ナル便益ヲ得マスルコトニナリマス、ソレ故ニ本案ヲ提出致シマシタノデゴザイマス、尙ホ細目ニ至リマシテハ、委員會ニ付セラレコトデゴザイマセウデ、其席ニ於テ説明致シマス  
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザイマセネバ、議事日程第六審查委員

ノ選舉ニ移リマス

六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長指名(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス——議事日程ノ七巡查看守退隱料及遺族扶助料法案、第一讀會ノ續、委員長報告、井上源衛君

七 巡查看守退隱料及遺族扶助料法案 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス——議事日程ノ七巡查看守退隱料及遺族扶助料法案、第一讀會ノ續、委員長報告、井上源衛君

井上源衛君演壇ニ登ル

○井上源衛君(百九十番) 諸君、本案ハ昨日委員會ヲ開キマシテ、委員長理事ノ選舉ヲシマシテ、引續キマシテ本議ニ掛リマシテゴザイマス、政府委員等モ出席ニナリマシテ、本案提出ノ理由ヲ詳細ニ辯明モゴザイマシタ譯デゴザンス、委員諸君モ十分質問モアリマシテ、逐條審議ヲ致シマシタ所ガ、諸君ノ御手許ニ回シテゴザリマスル通ニ、二十六條及二十八條ニ修正ヲシマシテ、其他ハ原案通ニ可決ヲシマシタ譯デゴザイマス、此段御報告致シマス  
○恆松隆慶君(百三十八番) 是ハ昨日直チニ委員會ニ條件ヲ附ケテ、託シタ位デゴザイマスカラ、ドウカ此際議會省略ヲ以テ、二讀會デ確定ニナランコトヲ希望致シマス

贊成タケト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 議會省略ノ動議ガ、恆松隆慶君カラ出マシタガ、御異議ハアリマセヌカ

異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ全部ヲ議題ニ供シマス、委員長報告通御異議アリマセヌカ

巡查看守退隱料及遺族扶助料法案 確定議

異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ確定致シマス——議事日程ノ八明治三十三年勅令第二百九十四號 委員長報告、高須賀權君

明治三十三年勅令第二百九十四號(承諾ヲ求ムル件)

高須賀權君演壇ニ登ル

○高須賀權君(八十四番) 此案ハ馬匹ノ輸出ヲ禁ズルコトヲ得ルト云フ、大藏大臣ガ特ニ命令ヲ發シマシタト云フ、外國ヘ向ケテ馬匹ヲ輸出スルコトヲ禁ズルコトヲ得ルト云フ法案デアリマス、昨日委員會ヲ開キマシテ、其委員長ニハ島田三郎君、理事ニハ私デアリマシタガ、今日島田君ガ御差支ガア支那北清事件ニ關シテ、馬匹ヲ輸出スルコトヲ云フコトハ、今日ノ場合甚ダ困難デアリマスルカラ致シマシテ、禁ジタイト云フコトデアリマシテ、委員會ニ於キマシテ十分ニ審議ヲ致シマシタ結果、終ニ委員會ニ於キマシテハ、

今日ノ場合適當ナルモノト認メマシテ、承認ヲ與ヘマシタノデアリマス、ドウカ本院ニ於キマシテモ、御承諾ニナリタイコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 委員長ノ報告通、承諾ヲ與ヘルコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ承諾ヲ與ヘルコトニ致シマス、議事日程ノ九内務省所管歲出臨時部土木事業費中濃濃川河口修築費繰越ニ關スル法律案、第一讀會ノ續、委員長ノ報告 山本幸彦君

九 内務省所管歲出臨時部土木事業費中濃濃川河口修築費繰越ニ關スル法律案(政府提出)

〔山本幸彦君演壇ニ登ル〕

○山本幸彦君(百十八番) 委員會ノ顚末ヲ御報告致シマス、此案ハ濃濃川流末工事、是ハ二十九年ヨリ即チ三十五年マデノ繼續工事デアッタノデゴザイマス、此理由書ニモアリマス通、種々ノ事情ニ依ッテ未ダ工事ヲ竣ヘテ居ナイノデアリマス、故ニ今ヨリ尙ホ三年ノ工事ヲ延バシ、即チ明治三十六年マデ繰越使用ヲスルコトヲ得ト云フノ法律ヲ制定シタイト云フノ請求デアッタノデアリマス、デ此工事ノ様子ヲ承テ見マシレバ、凡ソ三分ノ二程ハ工事モ進行致シテ居ル趣デアリマス、然ルニ二十八九年頃ノ年々ノ洪水ノ害メニ防害ヲサレテ、ソレガタメニ著手モ餘程遅クナテ、又御承知ノ通塞國デアリタメニ、意外ナル風雪ノタメニ工事ガ遅延シタ、此ノ如キコトガ工事遅延ノ原因ニ相成ッテ居ルノデアリマス、然ルニ免モ角工事ハ未ダ半半過ギヌ位ノ中途ニ在ル譯デアリマス、故ニ免ニ角工事ノ延期ト云フコトヲ許スヨリ、他ニ途ハアルマイト云フコトハ、委員長ニ於テ認メタノデアリマス、然ルニ之ニ附イテハ多少議論モアリマシテ、或ハ之ヲ否決スルト云フノ議論モアッタデアリマス、又否決ヲスルト云フノ理由ニハ、相當ノ理由ハ具ヘテ居ッタノデアリマス、然ルニ元ト五年ノ工事ニシテ、ソレヲ尙三年延スト云フコトハ、少シドウモ過ギルデアラウト云フ議論カラ起ッテ、遂ニ一年短縮ヲ致シテ、三十五年マデ繰越使用ヲスルコトニ、修正ヲ致シタノデアリマス、即チ三十五年マデ繰越使用ヲスルコトニ修正ヲ致シマシテ、是デ以テ全會一致デ、委員會ハ可決致シタノデアリマス

〔政府委員内務省土木局長田邊輝實君演壇ニ登ル〕

○政府委員(田邊輝實君) 唯今委員長カラ報告ニナリマシタ、内務信濃川河口修築費デゴザイマス、是ハ三十五年マデトアリマシタノヲ、一箇年減シテ三十五年マデト云フコトニナリマシタ、固ヨリ委員ト同様政府ニ於キマシテモ、成ルベク早く竣功スルト云フコトハ、同意ノコトデアリマス、併シ是別段政府モ此三十五年ト云フコトニハ、同意ヲ致シテ置キマス、併シ是ハ元ト三十五年デハ到底爲シ得ラレマイト云フコトカラ、三十五年マデ延シテ置イタノデアリマス、他日三十五年ニ同意シテ置キマシテモ、事實出來マセヌトキニハ、三十五年ニ延スト云フ法律ヲ出シマスコトガアリマスカモ知レマセヌ、豫メ此段御了承ヲ願ヒマス

○恆松隆慶君(百三十八番) 本案ハ二讀會ヲ開イテ、讀會省略ヲ以テ可決セ

ラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 讀會省略ノ動議ガ出マシタ、讀會ヲ省略シテ直チニ確定議ヲ開クコトニ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、全部ヲ議題ニ供シマス、委員長報告通御異議アリマセヌカ

十 決議案(鳩山和夫君外九名提出)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ委員長報告通決シマス、議事日程十決議案 鳩山和夫君

本年二月二十七日増稅諸法案ハ貴族院ノ議ニ上リ將ニ否決セラレムトスルニ當リ現内閣ハ前後二回ノ停會ヲ奏請シ其ノ極途ニ 聖勅ヲ煩シ奉ルニ至レリ誠ニ恐懼ノ至リニ堪ヘス然ルニ現内閣ハ之ニ對シ徒ニ一片ノ進退伺ヲ奉呈シテ恬然タリ是明ニ國務大臣タルノ職責ニ背キ輔弼ノ重任ニ堪ヘサルモノト信ス仍テ茲ニ決議ス

〔鳩山和夫君演壇ニ登ル〕

○鳩山和夫君(二番) 諸君、決議案提出ノ理由ヲ述ベタイト考ヘル、今日ノ場合ニ於キマシテ、此決議案ヲ提出シ、之ヲ可決スルノ必要ヲ述ベタイト云フノデアリマス、其理由ヲ述ベル前ニ、極テ簡短ニ決議案ヲ出サナケレバナラナイ場合ニナリマシタ事實ヲ、一應陳述シタイト考ヘル、諸君、既ニ御承知ノ通ニ、本年ノ二月二十七日ニ、増稅ニ關スル諸法案ガ、貴族院ノ議ニ上ボリマシテ、貴族院ニ於キマシタ、其前委員會ニ於キマシテ、之ヲ否決スルト云フコトニナッテ居リマシタ、本會議ニ於キマシテハ、貴族院ハ未ダ其意思ヲ發表シテ居ラナイ、貴族院ノ本會議ガ委員會ノ說ヲ容ル、ヤ、或ハ委員會ノ說ヲ翻轉シテ本案ニ贊成スルヤ、何レトモ貴族院ノ本議ニ於キマシタハ、未ダ其意思ヲ發表ハナカッタノデアアル、此際ニ於キマシテ、併ナガラ形勢ハ如何デアアルカト云フト、貴族院ノ本會ニ於キマシテハ委員會ノ說ノ通之ヲ否決セントスル勢ハ確デアリマシテ、此點ハ疑ガナカッタヤウデアアル、此場合ニ政府ハ十日間ノ停會ヲ奏請シテ、又十日ノ期限ガ盡キマスルニ方ッテ、更ニ五日間ノ停會ヲ爲シタノデアアル、抑停會ト云フモノハ何ノタメニスルノデアアルカ、是ハ後ニ其理由ヲ申上ゲヤウト思フ、此二度目ノ停會ノ期日ノ盡キルニ方ッテ、畏レ多クモ聖勅ヲ煩スニ至リマシタ、吾々臣民ハ實ニ恐懼ノ至ニ堪ヘナイ次第デアルト思フ、其後ニ總理大臣伊藤侯爵始、其他ノ閣臣ハ一種ノ書面ヲ、閣下ニ差出シタト云フコトデアアル、俗ニ之ヲ進退伺ト稱シテアリマス、私ガ何ノコトヲ云フノダカ、諸君ハ御承知デアラウト思フ、其書附ノシマヒノ方ニハ「臣任調鼎ニ在リテ鹽梅道ヲ愆ル誠ニ恐懼ノ至ニ堪ヘス斯ニ謹ミテ進止ヲ乞フ臣博文誠恐誠懼頓首頓首」此書面、是ダケノ事實ハ、斯ウ云フ判斷ヲ爲シテ宜カラウト思フノデアアル、即チ國務大臣ハ補弼ノ任ニ在リナガラ、其任ニ堪ヘザル者ト斷定シテ差支ナイノミナラス、斷定

スベキモノデアルト考ヘル(ヒヤ)此停會中ニ政府ノ爲シタル所ノモノハ  
ドンナモノデアル、政府ノ爲シタル所ノモノハ、ドンナモノデアルカ、抑、停  
會ナルモノハ何ガタメニ憲法ニ規定セラレテ、如何ナル場合ニ之ヲ行フベキ  
モノデアルカト云フノニ、帝國議會ガ何カ或ル一種ノ感情ニ打タレテ、其感  
情ノメニ決議ノ方針ヲ誤ルガ如キ事情ノアル場合ニハ、停會シテ而シテ靜ニ  
考ヘルト云フ餘地ヲ與ヘルト云フ趣意デアラウト思フノデアル、停會中ニ政  
府ト云フモノハ、嚴然トシテ何事ヲモ爲サズ、唯停會シテ置クノガ憲法ノ精  
神デアラウト思フノデアル、停會シテ置クニテ其他ニ其間ニ憲法ノ許サ  
ル一種ノ運動方法ヲ用ヒルトカ云フヤウナコトヲ以テ、世上續々一時々使  
ヒマスル、所謂議員ヲ軟化セシムルト云フヤウナ方針ヲ執ツテ、而シテ更ニ其  
議事ヲ開クト云フ如キハ、憲法ノ精神ニ背クコトデアラウト思フノデアル、  
伊藤内閣ハ此停會中ニ何ヲ爲シタ、停會中世間ニ顯レタ所ノ事實ハ、所謂元  
老ナル者ガ、東京ニ居ラザル所ノ元老ハ、地方カラ參リ、東京ニ既ニ居タ所ノ  
者ト協議シテ、是等ノ人ガ貴族院ノ議員、是ガ議員ノ資格デアルトカ、一個  
人ノ資格デアルトカ云フ論モアリマセウガ、サウ云フ三百論ハ打捨テ、シマ  
ヒマシテ、免ニ角是等ノ元老諸氏ガ貴族院議員ノ或ル人ト交渉シテ居タ、或  
ハ貴族院ノ側ノ方カラシテ、一種ノ修正案ヲ出シタ、之ニ元老ガ應ズルトカ、  
或ハソレヲ以テ伊藤侯爵ニ元老ヨリ交渉スルトカ、斯ウ云フノミガ此停會中  
ニアタノデアル、元老ナル者ハ何者デアル、此元老ト呼バル、人ノ中ニ、  
貴族院ニ議席ヲ持ッテ居ラル、方モアリマセウ、サウデナイ人モアルカト思  
フ、何レニ致シマシテモ是等ノ人ハ立法行政何レノ機關ニモ先ヅ關係ノナイ  
人ト言ッテ宜カラウト思フ、此無關係ノ人ガ停會中ニ大ニ奔走シタト云フノ  
ハ、世間ノ認メテ居ル事實デアル、或ハ是ハ伊藤侯爵ノシタ仕事デハナイ、伊藤  
侯爵即チ現政府ガ是等ノ人ヲ呼ビ寄セテ、サウシテ自分ノ力ノ足ラナイ所ヲ  
是等ノ人ニ補ッテ貰フタト云フノデハナイ、元老諸氏ハ國ヲ憂フルノ心、ソレガ  
溢レテ國家ノ大事ト云フコトデ駭附ケラレタト云フ辯解モアリマセウ、サリ  
ナガラ是ダケノ事實ハ確デアル、所謂元老諸氏ガ貴族院議員諸氏トノ交渉中  
ニ、伊藤侯爵ハ元老諸氏ト會合セラレテ居ルト云フコトハ事實デアル、ソレ  
デアルカラ此元老諸氏ガ如何ナル目的ヲ以テ、東京ニ參ッテ、如何ナル手段  
ヲ執ッテ貴族院議員諸氏ト談合セラレタト云フコトヲ侯爵ガ知ラナイト云フ  
コトハ決シテナイト思フ、己レ自ラ之ヲ求メタト云フコトハセヌニシテモ、  
其事實ガアルノニ、ソレヲ知リナガラ左様ナ憲法政治ノ條規以外ノ行動ト云  
フモノヲ排斥セナイト云フコトハ、間違ッテ居ルト考ヘルノデアル、ソレカラ  
此例ノ進退伺ト云フモノデアル、是ハ一體如何ナル趣意デアアルカ、先刻モ朗  
讀致シマシタ通ニ任調鼎ニ在リ、鹽梅道ヲ愆ル、普通ノ言論ニハ用ヒナイ熟  
字ガ使ッテアル、併ナガラ吾々ガ用ヒル所ノ辭ニ之ヲ引直シテ見マスルト、任  
重職ニ在リ、其職責ヲ盡サズト書イタノト、之ハ同ジコトデ(ヒヤ)「ト  
呼フ者アリ」用ヒ附ケナイ古イ漢語ノ熟字ヲ持出シマシタ所ガ、今日ノ憲法  
學ノ辭ヲ以テ之ヲ言ヒマスルトキニハ、重職ニ在リテ其責任ヲ盡サナイト、是  
ハ翻譯シナケレバナナイ辭デアル、自ラ其職責ヲ盡サヌト云フコトヲ知ッ  
タトキニ進止ヲ乞フト云フ結論ハ、如何ナルモノデゴザイマスカ、又自ラ職  
責ヲ盡シテ居ルト考ヘルナラバ、斯様ナ書面ヲ出ス必要ハナイノデアル、此

書面ニ據ッテ見レバ、侯爵伊藤總理大臣始メ其他ノ閣臣ハ、己其職責ヲ盡サ  
ルト云フコトハ、自分自ラガ認メテ居ラル、コト、考ヘル、之ヲ認メテ居リ  
ナガラ尙ホ恬然トシテ今日其儘ニ居ルト云フノハ、憲法國ノ宰相、憲法國ノ閣  
臣ノ爲スベカラザルコト、私ハ信ジマス(ヒヤ)「又ハ三百論」又ハ「最  
モ然リ」ト呼フ者アリ今日此決議案ヲ茲ニ出シマスル提出者共ノ提出者等ノ  
意思ト云フモノハ、所謂憲法擁護ニ在ルノデアル、既ニ憲法ヲ此國ニ施カレ  
テ憲法ニ據ッテ天下ノ政治ヲ爲スト云フコトニ極ツタ以上ハ、憲法ノ明定セル  
軌道以外ニ於キマシテ、政治ヲ爲スト云フコトハ明ニ非立憲ト私ハ考ヘル  
デアル(誤解ダ)ト呼フ者アリ即チ伊藤侯爵ノヤリ方ト云フモノハ、非立憲  
ナル動作ト私ハ認メルノデアル(ヒヤ)「又ハ大誤解」ト呼フ者アリ今日  
此決議案ヲ提出シテ、永ク憲法ヲ運用上惹ナカラシメテ御覽ナサイ、自由黨  
ノ諸君自由ナルモノハ、自由黨ト云フ名義ガナクナルト共ニ精精マデナク  
ナツタノデアリマスカ(進歩黨ノ眞似ヲセズ)又ハ「ヒヤ」又ハ「ノウ」  
ト呼フ者アリ精神ハ何處ヘ往ッタノデアル、政友會ト云フノニ名ガ變タ  
メニ、自由黨ノ舊來唱ヘタ人權ノ擴張、人權ノ伸張、所謂政黨内閣ノ、所謂  
憲法政治ト自由黨ガ曾テ唱ヘタ所ノ精神、其議論ハ名ト共ニ消滅シタノデア  
リマスカ(何ヲ言フ三百)又ハ「馬鹿ヲ言ヘ」ト呼フ者アリ諸君、一時ノ行  
懸リニ附キマシテ從來ノ初志ヲ捨テルト云フコトハ、諸君ノタメニ歎クノミ  
ナラズ、國家ノタメニ、憲法政治ノタメニ歎カナケレバナラヌト私ハ考ヘル  
ノデアル、私ハ此案ニハ所謂政友會諸君ノ中デモ同情者ガアルト考ヘルノデ  
アル(ノウ)ト呼フ者アリ詰リ其同情者諸君ト共ニ之ヲ可決セント考ヘル  
ノデアル

○議長(片岡健吉君) 星亨君  
○丸山嵯峨一郎君(五十五番) 議長  
○議長(片岡健吉君) 質問デスカ  
○丸山嵯峨一郎君(五十五番) 質問デス、此案ハ重大ナル案デアリマスルカ  
ラシテ、能ク質問ヲ致シテ提出者ノ精神ヲ伺ウタ上デ、吾々ハ贊否ヲ決スル  
積デ、提出者ニ質問致シタイノハ、事實ノ上カラシテ見レバ、此案ハ貴族院  
ニ於テ増稅案ニ反對ヲシタ其結果トシテ、停會ト云フコトニナツタ、其結果  
ハ遂ニ此聖勅ヲ煩シ奉ルニ至ツタト云フコトデアアルカラ、或ハ提出者ノ眞精  
神ハ、貴族院ヲ彈劾スルノ精神ニ出タモノデハナイカ、之ヲ隱サズニ心底カ  
ラシテ其意志ヲ發表セラレンコトヲ望ム、又其次ニハ、聖勅ヲ煩シ奉タル  
コトガ、停會ヲ奏請シタト云フコトガ原因ニナツテ居ルノデアアルカト云フ其  
結果、此案ニ付イテノ問題ニナツテ居リマスガ、提出者ハ果シテ此詔勅ヲ煩  
ハシ奉タル事實ガ、我此内閣ガ停會ヲ奏請シタコトヲ以テ、此原因ニ歸シ  
タルノデアアルガ、其事ノ意思ヲ確ムルノガ一ツ、其次ニハ(答辯ノ必要ナシ)  
ト呼フ者アリ詔勅ニ對シ奉ッテ此案ヲ以テ不服ノ意ヲ現シ、己ノ意ヲ發表ス  
ルト云フ所ノ精神ニ出タノデアアルカ、其次ハ内閣ガ貴族院ノ妄動ヲ制止スル  
コトヲ以テ、無能ト云フ、即チ或ル手段ヲ買収スルコトガ出來ナイト云フ  
コトヲ云フモノガ確マデ居ラヌ(分ラヌ分ラヌ)ト呼フ者アリ又何故ニ此職  
責ヲ盡サズシテ、重任ニ堪ヘヌト云フ責ヲ此内閣ニ歸スルノデアアルカト云フ

點ガ不明デア、詰リ敵ナキ所ニ矢ヲ放ツガ如キ案デアリマスカラ、其精神ノアル所十分ニ發表シテ、三百のノ説明ヲ要セス、十分ニ其真意ノアル所ヲ發表シテ、院議ニ付スル方ガ必要デアルト思ヒマス、明瞭ナル精神ノ答辯ヲ望ム

○鳩山和夫君(二番) 質問者ノ趣意ハ能ク分リマセヌケレドモ、先ヅ是ダケヲ御答シタラ分ルダラウト思フ、第一ノ御質問ハ貴族院ヲ彈劾スル精神デア、言ツタコトモナシ、議案ノ中ニモ書イデナイ、何ヲ見テ斯様ナ質問ヲ發セラ、ノデアアルカ、其以下ノ二ツノ質問モ同ジ答辯デ宜シ、書イデアルコトト、言ツタコトガ眼ニ這入り、耳ニ這入レバ分ツテ居ル(ヒヤ)ト呼フ者アリ)若シ、若シ、若シ自分ノ演説中他ノコトデモ考ヘテ居ツタト云フナラバ、ソレハ御當人ノ責デアツデ、其一人ノタメニ他ノ諸君ノ妨害ヲ此處デ爲スベキモノデハナイト考ヘル

○議長(片岡健吉君) 星亨君  
(星亨君演壇ニ登ル)

○星亨君(二百四十一番) 諸君今日唯今議事日程ニ載ツテ居マスノハ、決議案ツレニ附キ鳩山君ガ意見ヲ述ベラレタ、即チ説明シテ意見ヲ述ベラレタ、私ハ此案ニ反對ヲ致スノデアアル、ツレ故ニ一應意見ヲ述ベヤウト考ヘル(謹聴ト呼フ者アリ)然レドモ不幸ニシテ「インフルエンス」ニ取附カレテ居ルデアアルカラ、或ハ諸君ノ參考ニナルマデ議論ガ出來ナイカモ知レナイ、サリナガラ國家ノ問題デアアルカラシテ、十分ニヤルダケヤル積デアラウト考ヘル、ツレデ元來此案ノ實ハ法文カラ見マシテモ、ドウ見マシテモドウ見マシテモ意味ガチツトモ分ラナイデアアル(病氣ノセイ)ダト呼フ者アリ)即チ丸山君ガ質問シタノモ其意味デアラウト思フ、分ラナイト云フコトハ之ヲ見テ、此案ヲ見テ分ツタトシタ人ハ、是ハ日本人デハナイト考ヘル(拍手起ル)ナゼト云フモノハ、斯クミ、既ニ聖勅ヲ頒シ奉ルニ至リ、誠ニ恐懼ニ堪ヘズト、云フコトガアル、サウスルト聖詔ガ出タ恐入ツタ譯デアアル、斯ウ云フコトニナツテ居ルデアアル、恐入ツタガ、内閣ハ何ゼ引カナインデアアルカ、内閣ハ何ゼ責任ヲ持タナイデアアルカ、斯ウ云フヤウナ議論ニナルデアアル、(三百論ダ)ト呼フ者アリ)三百論デモ六百論デモ、サウスルヨリ外ナイデアアル、或ハ之ガタメニ貴族院ガ斯ウ云フコトヲ云フノナラ、誠ニ分ツテ居ルデアアル、自分ノシタコトニ附イテ遂ニ陛下ヲ煩セナケレバナラヌデアアルカラシテ、斯ウ云フコトノ詔ガ下ツタノハ、即チ貴族院自ラガ宜シクナイデアアルカラシテ、恐懼ニ堪ヘナイ、恐入ツタト云フノナラバ分ルケレドモ、衆議院ガ即チ恐入ツタト云フコトハ、一向分ラナイ話ト言ハナケレバナラヌデアアル(拍手起ル)故ニ或人ハ此議案ハ、衆議院デ出來タノニアラズシテ、他ノ院カラ舞込シテ、頼マレテ茲ニ案ガ提出サレタデアルト云フ(拍手起ル)或人ノ言ハ虚言デナイト言フノ外ハナイト私ハ考ヘルデアアル、諸君誠ニ恐入ツタ譯デゴザイマスガ、此案ヲ議スルニ附イテハ、即チ議論ハ二ツシカナイカト思フノデアアル、此勅令ト云フモノハ、所謂勅諭ナルモノガ適當デアアルカ否ヤト云フコトデアラウト考ヘルデアアル、即チ諸君、若シ此案ヲ此勅令ガ適當ナリトスルナラバ、貴族院ハ——貴族院ノ行動ハ非ナリト論ジナケレバナラヌデアアル、而シテ即チ政府ノシタコトハ、皆責任ヲ盡シタモノト認

メル外ハナイデアアル(ノウ)ト呼フ者アリ)即チ然ラズシテ、政府ガ責任ヲ盡サナイト云フカ、若クハ貴族院ノシタコトガ是ナリトスルナラバ、是コソ勅令ハ(笑聲起ル)適當デナイト云フ所ノ議論カラ私ハ出テ來ナケレバナラント考ヘルデアアル(ノウ)ト呼フ者アリ)即チノウ(デア)デモ、サウ云フヤウナ結論ニナラナケレバナラヌ譯デアアルト言ハナケレバナラヌデアアル、故ニ此案ヲシテ真正ニ議論セシムルノナラバ、此案ヲシテ即チ相互ニ——互ニ立ツテ往クトスルナラバ、所謂譯ヲ分ラセルト云フナラバ、勅令ハ不當ナリ(笑聲起ル)勅令ハ不當ナリト云フ議論ニナラナケレバナラヌト思フデアアル、諸君、ツレデナケレバ議論ガ立タナイデアアルト私ハ考ヘルデアアル、故ニ茲ニ即チ本案ニ附イテハ、勅令ガ不當カ、即チ勅諭ガ不當デアアルカト云フ論ニナラナケレバナラヌト思フデアアル(ドウシテモ三百論ダ)ト呼フ者アリ)諸君、默ツテ聽給ヘ、即チ若シ勅令ガ適當デアルト云フコトニナルナラバ——適當ト云フコトニナルナラバ、是ハ即チ諸君ガ言フガ如ク、我衆議院ニ決セラレタル一ノ増稅案デアアルデアアル、ツレデ諸君ハ此中デ賛成スル人ハ——シナカッタ人ト云フモノハ、僅ダ多クハ賛成セラレタ人デアアルデアアル、然ラバ即チ其賛成ノ結果、衆議院ノ確定致シタル所ノ増稅案ガ、貴族院ニ回ツタトキニ當ツテ、彼ノ貴族院ニ於テハ、如何ナル方法ヲ執ルカト云ヘバ、詰リ之ニ反對シタト云フコトニナルデアアル、然ラバ即チ我衆議院ハ之ニ對シテハ、我衆議院ノ決シタルコトデアレバ、如何ナル方法ヲ以テモ貴族院ヲ同意セシムルト云フノガ當リ前ト言ハナケレバナラヌデアアル(ノウ)ト呼フ者アリ)即チ同意セシムルト云ハナケレバナラヌデアアル、而シテ諸君——既ニ即チ諸君ニ於テモ(默)又「謹聴」ト呼フ者アリ)諸君ニ於テモ宜シトハ、此衆議院ノ——衆議院ノ議決ト云フモノガ、貴族院ニ於テ拒マレタモ宜シト云フ議論ナラバ、即チ此衆議院ノ體面ヲ汚ス論ト云フハナケレバナラヌト考ヘルデアアル(拍手起ル)然ラバ即チ諸君ノ決心ハ、此案ガ通過致シテ法律ト爲ラナケレバナラヌデアアルデアアル(論理ガ合ハヌ)ト呼フ者アリ)諸君、サウ云フ意志ヲ持ツテ居ルデアアル、此勅諭——恐入ツタ譯デアアルガ、即チ詔勅ガ降ツテ、衆議院ノ意志ガ茲ニ貫徹ヲ致シタト云ハナケレバナラヌデアアル、然レニ諸君ノ中ニハノウデアアルト云フコトナラバ、宜イ(ノウ)ト破ラレテ宜イト云フコトナラバ、即チ此決議案ヲ出ベキモノデナイト言ハナケレバナラヌト思フデアアル(ノウ)ト呼フ者アリ)諸君、既ニ彼ノ増稅案ハ諸君ノ希望スルガ如クニナツテシマッタナラバ、諸君ハ太白ヲ泛ベテ、即チ大喜ヲセナケレバナラヌト考ヘルデアアル、諸君、然ラバ其行爲ガ政府ニ在ラウトシ、若クハ衆議院ニ在ラウト致シタ所ガ、詰リ誠ニ衆議院ノ議論ヲ助ケルモノデアアルカラシテ、政府ハ十分責任ヲ盡シタモノト言ハナケレバナラヌ、即チ吾々モ政府ノ責任ヲ盡シタ結果デ、吾々ノ増稅案ガ異議ナク通過ツテ、今ヤ法律ト爲リツ、アルト云フノハ、誠ニ以テ喜バナケレバナラヌト考ヘルデアアル、諸君、然レニ——然ルノニ此決議案ヲ見ルト、一向譯ガ分ラナイデアアルデアアル、即チ此「徒ニ一片ノ進退伺ヲ奉呈シテ恬然タリ是明ニ國務大臣タルノ職責ニ背キ輔弼ノ重任ニ堪ヘサルモノ」ト云フコトデアアルデアアル(其通ダ)ト呼フ者アリ)然ラバ何ガ輔弼ノ重任ヲ盡サヌモノデアアルカト云フコトニスルト、斯ウ言フヨリホカナイデアラウト思フ、陛下ニ

即チ勅諭ヲ御出シナサシメルヤウニ至ラタノハ、政府ハ善クナイト云フ意味  
デアラウト私ハ考ヘルノデアル(其通)ト呼フ者アリ諸君、然ラバ即チ 陛  
下ガ貴族院ニ向テ、勅諭ヲ發セラレテ、其衆議院ノ議論ノ通立タト云フコ  
トニ付テハ、諸君ガ異論ナイト思フデアルノデアル、サウスルト詰リ勅諭ガ  
出ルヤウニナラタノハ、誠ニ輔弼ノ任ヲ盡サナイト云フコトハ言ハレナイ  
考ヘルノデアル、諸君、何故デアル、何故ニ此勅諭ヲ御出シニナツテ、  
レニ對スル責任ヲ盡サナイト云フコトハ、ドウ云フ譯ニナルノデアル  
カ(憲法ハドウスル)ト呼フ者アリ)即チ諸君、憲法ト云フモノハ  
諸君、憲法ト云フモノハ、即チ大權ノ一部分ガ分タモノデアルト言ハ  
ナケレバナラヌト考ヘルノデアル、大權ノ中ニ於テ憲法ハ成立テ居ラナケ  
レバナラヌト考ヘルノデアル、然ラバ憲法ヲ以テ 陛下ノ口ヲ噤ミ 陛下ガ  
爲サル、コトヲ妨グタモノデハナイト考ヘルノデアル(ヒヤ)然ラバ  
陛下ガ貴族院ノ非ヲ悛メサセルタメ、貴族院ノ惡ルイ方ハ進ムノヲ挽回ス  
ルガ爲メニ 陛下ガ獨特ノ大權ヲ以テ勅諭ヲ出サレタコトハ、何ノ惡ルイコ  
トデアルカ(拍手起ル)既ニ此事ガ宜イトナツタ以上ハ、即チ政府ハ果シテ職  
責ヲ盡シタカ否ヤト云フコトハ、最モ善ク盡サレタト言ハナケレバナラヌト  
考ヘルノデアル、唯諸君ノ頭ノ中ニハ——諸君ノ頭ノ中ニハ二十世紀ノ曙光  
ガ這テ居ラヌ人ガ隨分アルト思フノデアル、諸君、今ヤ既ニ 陛下ノ口ヲ噤  
ムト云フコトハ、出來ヌノデアル、又其行爲ニ附テハ非違ヲ容レルコトデナ  
イト云フコトニナツタナラバ 陛下ハ洵ニ吾々臣民ノタメ、否ナ、此衆議院ノ  
メニ渥キ思召ヲ以テ、貴族院ニ其非ヲ悛メシメタト云ウテ宜イノデアルカラ  
シテ、吾々ハ茲ニ喜デ増稅案ノ通過ヲ祝スルノ外ハナイト考ヘルノデアル、  
故ニ此案モ進歩黨カラ出ナカッタカラ宜シイノデアル、然ルニ進歩黨カラ出  
トスルト、即チ進歩黨ガ増稅案ニ贊成ヲシテ居ルノデアル、而シテ斯ウ云フ  
モノヲ以テ出シテ來タト云フト、世ノ中ハドウ言フカト云ヘバ、衆議院ニ於  
テ進歩黨ガ増稅案ニ反對ヲシナイノハ、即チ國民ノ輿論ガ増稅ニ在ルカラ、  
之ヲ已ムナク贊成シタノデアルガ、其内心ニ於テハ贊成デナカッタト云ハナ  
ケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアル(拍手起ル)サウシナケレバ此案ハ出ナイ  
ト考ヘルノデアルアリマスカラ、私ハ十分ニ附イテハ論ジタイノデアルガ、前  
置キノ如ク病氣デアリマスカラ、大體ノコトヲ論ジタイノデアルアリマスカラ、諸  
君ハ是ニ附イテ十分ニ御議論ニナツテ、滿場一致ヲ以テ否決ニナルコトヲ希望  
致シマス

○議長(片岡健吉君) 島田三郎君

(島田三郎君演壇ニ登ル)

○島田三郎君(八十五番) 諸君、本員ハ本問題ノ議ニ與リマスルトキニ方ッ  
テ、甚ダ遺憾ニ堪ヘヌコトヲ第一ニ感ジマス、斯ノ如キコトガ今日衆議院  
ノ議場ニ現レマシテ、勅諭ノ可否ニ就イテ論及スル如キ語調ヲ唯今聽クニ  
至ツタノハ、實ニ本院ノタメ、茲ニ議政ノタメ感概ニ堪ヘヌコトデゴザイマス  
(拍手起ル)且ツ又此問題ヲ議スルニ當ツテ、唯今星君ノ演說ノ中ニハ、屢  
進歩黨ナドト云フ辭ヲ聽クノハ甚ダ本院ノ忌ムベキコトデアラウト思ヒマ  
ス、此事ニ至ツタナラバ同様に鳩山君ノ口カラ(ア)ト呼フ者アリ又「默レ」  
ト呼フ者アリ)御默リナサイ……議長、議場ノ秩序ヲ保ツテ下サイ(默レ)

默レ)又「謹聽々々」ト呼フ者アリ)諸君ノ靜マルマデハ、此壇上ニ立ッテ居リ  
マスカラ、御騷ギニナレバ、イツマデモ御騷ニナルガ宜イ——本員ハ是ト同  
時ニ鳩山君ノ口カラ政友會云々ト云フコトヲ此議事ノ間ニ承ハルノヲ甚ダ遺  
憾ニ思フノデアル、此問題ハ鳩山君ノ——政友會ノ問題ニモアラス、又勿論政  
友會ノ問題ニモアラス、又勿論憲政本黨ノ問題デモモイノデゴザイマシテ、  
又一時ノ問題ニアラズシテ、後來ニ眞キ例ヲ貽スカ、惡シキ例ヲ貽スカ、實ニ  
大切ナル問題デアアル、斯ノ如キコトヲ議スルニ當ツテ、議場ニ驚キタル聲ヲ  
發スルハ、國事ヲ如何ニ御考ニナルノカ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイノデアル(同感  
同感)ト呼フ者アリ)全體上下ノ心ガ能ク協和致シテ、國家ノ得失ヲ公平  
ニ議スルダケノ議場ガ成立ッテ居リマスレバ、恐ラクハ此問題ガ、今日此議  
場ニ上ボルノ時勢ニマデ至ラヌト思ヒマス、又貴族院ト内閣ト、斯ノ如キ  
衝突ヲ惹起シテ、恐多クモ勅諭ノ出ルニ至ルト云フコトハ、吾々ハ期サヌ  
コトデアアル、然ルニ斯ノ如キ時勢ヲ惹出シテ、之ヲ議スルニ至ツタノハ、  
大ニ本員ガ遺憾ニ思フ所デアリマス、併ナガラ事既ニアル以上ハ、其利害得  
失ノアル所ヲ明確ニシテ、後人ヲシテ感ハシメザルダケノ責任ヲ盡スコトハ、  
此席ニ列ナル以上ハ、諸君ハ此責ヲ分タナケレバナラヌト思ヒマス(默目ダ  
ヨ)「ア」メン)ト呼フ者アリ)然シテ其願末ニ至レバ、提出者ノ一人タル鳩  
山君カラ、簡明ニ御話ニナリマシタカラ、最早其經歷ヲ論ズル必要ハナイト  
思ヒマスガ、免角ニ議會開ケテヨリ以來、十餘年ノ久シキヲ經マシタケレ  
ドモ、衆議院ト内閣トノ間ニ物議ガ起ツテ、停會ニ至ツタ例ハ、本員記憶  
シテ居リマスガ、今回ノコトハ珍クモ貴族院ト内閣トノ間ニ衝突ガ起ツテ、  
一回ノ停會ノミナラズ、二回ノ停會ニ至リ、然レドモ二回ノ停會ノミナラ  
ズ、類ヒ稀ナル、後來斯ノ如キ例ハナカラシコトヲ期スル所ノ、未曾有ノ  
勅諭ヲ下サル、ニ至ツタハ、實ニ恐懼ニ堪ヘヌ譯デ、之ヲ恐懼セズシテ何事  
カ恐懼スベキト思フ、然ルニ星君ハ之ニ向ツテ言ハル、ニハ、貴族院ガ恐  
懼スベキコトデアツテ、衆議院ハ與ル所ニアラズト言ハレテ居ルニ至ツタハ、  
星君ハ日本ノ衆議院ニ列ナル一人ト見ルコトハ出來ナイノデアル、況ヤ日本  
臣民トシテ、恐懼セザルト云フ所ノ本人ノ姓名ハ、永ク速記録ノ中ニ留メテ  
置キタイト思ヒマス、斯ノ如ク一回ノ停會ガゴザイマシタガ、此事タル實  
ニ聖慮ヲ煩ハシ、恐懼ニ堪ヘヌデゴザイマスガ、併ナガラ憲法ノ條章ニ明記  
スル所デゴザイマスレバ、致方ガナイケレドモ、是ヨリ以後ノ世ノ中ニ現レ  
タ事蹟ハ、本員ノ見解ニ據レバ、憲法範圍内ノモノト解釋スルコトハ出來ナ  
イ、何故トナレバ、憲法ハ國務ヲ何人ニ命ジテ、補弼ノ任ヲ負ハシメルカト  
云ヘバ、新ニ引用スルノ必要ノナイ程ノコトデアアルカ、憲法第五十五條ニ  
「國務大臣ハ、天皇ヲ補弼シ其ノ責任ヲ負ス」ト明記シテゴザイマス、併ナガラ  
内閣ト貴族院トノ衝突ニ依ツテ、立法部ガ暫ク停止セラレタ後ニ、憲法ニ  
明記セナイ人ノ勸キヲ現出シタノハ、未曾有ノコトト本員ハ理解スルノデア  
リマス、勿論憲法未ダ立タズ、議會未ダ開ケザルノ明治十四年頃ノ日本ノ政  
治ヲ緝キ官制ヲ緝ケバ、元老ト云フ文字ハ、公ケノ文字トシテ見ラレタコ  
トガアリマスガ、一度憲法行レテ立法ノ權ガ、帝國議會ニ移リシ時節ニ至リ  
マスレバ、元老ト云フ文字ハ、世間普通ノ記錄ニ留マルベキモノニシテ、官  
制ノ上ニハ元老モナケレバ、元老ガ何ヲ爲スベキモノト云フコトヲモ承ラヌ

ノデア、然ルニ此停會ノ間ニ、元老ト云フ者ガ出入致シマシテ、樞密院顧問官ニモアラズ、勿論又大臣ニモアラズシテ、貴族院トノ間ニ其交渉ガ成立テ居リマス、此交渉ノ成立ツマデノ間ハ、内閣ニ人アリヤ否ヤ、内閣ハ日本帝國ニ成立ツテ居タヤ否ヤ疑フノデアリマス、若シ成立ツテ居リマスナレバ、何故ニ責任ナキ人ニ政府ニ啄ヲ容レシメタルデアルヤ、内閣ハ坐シテ傍觀シテ居タ外ニ、何ヲシテ居タカト云フコトヲ、問ハナケレバナラヌ、凡ソ仕事ニハ責任ガナケレバナラヌ、元老ハ如何ナル辭ヲ、陛下ニ奉ツテ、内閣ニ如何ナル影響ヲ與フルカ、其結果如何ヲ見ズシテ、斯ノ如キ責任ノナキ人ニ啄ヲ容レシメタルハ、憲法ノ範圍内ノ働キデナイト思ヒマス、憲法ノミナラズ、他ノ法令ヲ開イテ見テモ、元老ト云フ文字ガ何レノ所ニ在リマスカ、元老ノ職制如何、内閣ト貴族院トノ衝突ヲ來シタルトキニ、元老ガ調停ノ任ニ當ルト云フ文字ヲ見タコトガナインデアリマス、然ラバ今ノ内閣ハ其職責ヲ曠シウシタルノ、最モ明ナルモノデアリマス、此事ハ他人ノ辯駁ヲ俟タズ、唯今ノ總理大臣ガ世ノ中公ケニセラレタ文書ヲ、公ケニスルノガ適當ト思マス、幸シ今日國務大臣席ニ別坐セラレテ居リマスカラ、若シ世ノ中公ケニセラレタ文書ハ、未ダ吾々ノ知ラザル所デアルト云フナラバ、之ヲ證言セラル、機會モアリマスガ、本員ハ總理大臣ガ曾テ樞密院議長デアッタトキニ、憲法ノ取調ニ與ツテ、其後意見ヲ公ケニセラレタ文書ガ、唯今嚴トシテ存シテ居ツテ、唯今ノ總理大臣ガ手ヲ著ケラレタニ相違ナイト信ジテ居リマスガ、之ヲ讀ミマシテ、本員ガ唯今論シマシタコトハ、決シテ無根據ノ言ニアラズト云フコトヲ、證據立テヤウト思ヒマス「國務各大臣ハ入テ内閣ニ參與シ出テ各部ノ事務ニ當リ大政ノ責任ヲ負ヒモ」ナリ凡ソ大政ノ施行ハ必内閣及各部ニ由リ其門ヲニセズ蓋立憲ノ目的ハ立權ノ使用ヲ施行シテ適當ナル軌道ニ由リシメムトスルニ在リ」此文字ハ第五十五條ノ國務大臣ノ職責ヲ規定シタ註解トシテ、總理大臣ガ樞密院議長トシテ、此憲法ノ取調ニ與ツテ後、其意見ヲ世ノ中公ケニ參考シテ公ケニサレタ所ノ、憲法義解ノ中ニ明記サレテ居リ所ノモノデゴザイマス、即チ其骨子ヲ申シマスレバ、即チ各部ニ由リ其門ヲニセズセズト云フノデア、然ルニ元老ト云フ者ガ大政ニ與ツテ、此間ハ内閣ガ停止セラレテ居タコトハ、恰モ帝國議會ガ停止セラレタ如キモノデゴザイマスカラ、此時ニ方ツテ事務ノ施行ハ、門ヲニセズザルヤ否ヤト云フコトヲ疑フノデア、是レ違憲ニアラスシテ何ゾヤ、本員ノ見解ニ據レバ、憲法ノ條章ニ明ナル據リ所ハナイト云フノデアリマス、星君ハ云々セラレマシタガ、本員ハ此事ニ附イテハ、如何ナル見解ヲ取ラ、カ承リタイノデアリマス、併ナガラ是ハ先ツ此論ハ茲ニ止メマシテ、尙ホ其後ノコトヲ申シマシタナラバ、如何デア、本員ハ遡ツテ内閣ト貴族院トノ衝突ノコトノ可否ヲ論ズルハ、此處ハ適當ナル場所デナイト思ヒマス、併ナガラ一言シテ、其原因ヲ論ズルモ無用デナイト、其詳密ナルコトニ至ツテハ、本員ガ既ニ議長ノ手許ニ出シテゴザイマス、全國ノ政治ノ紊レテ居ルハ狀ヲ質問致シマシタトキニ、本員ガ知り得タ事實ヲ舉ゲテ、政府ニ問ハウト思ツテ居リマスカラ、此處ニハ其綱目ダケヲ二ツ三ツ舉ゲテ、本論ノ助ト致シマスルノデアリマスガ、詰リ内閣ト貴族院トノ衝突シタ、其後トノ始末ニ附イテ此案ノ成立ツ如ク、疑問ニナツタノデアリマス、溯ツテ其衝突ノ起リマシタ原因ハ、又内閣其責ナシト云フコトハ出來ナイノデア、此増稅案ガ問題ニナツテ、之ヲ星君ガ楯

トシテ論ゼラレマシタ、其趣旨杜撰杜撰、前後矛盾、而シテ其責ニ當ル大臣ガ、例ヘバ之ヲ實行スル期限ニ付イテ辭ヲ變ヘ、殆ド證據スルコトノ出來ナイ證據案ヲ出シテ、軍事ノタメニ必要ナリト云フ、簡單ナル文字ニ依ツテ説明ヲ企テタノハ、抑、内閣ノ不信任、内閣ガ辭ヲ竭シ誠ヲ披カナイ所ノ過チデ、此衝突ヲ惹起シタノデア、若シモ速記録ヲ開イテ調ベタナラバ、唯今本員ノ述べタ通、衆議院ニ於テ説明シタル所、衆議院ノ委員會ニ於テ説明シタル所、貴族院ノ委員會ニ於テ説明シタル所、増稅案其モノニ附イテ巨多ノ矛盾ガアルコトヲ見マシタナラバ、人民ノ休戚ニ關セル案ヲ、如何ナル根據ニ依ツテ議シ得ルカラ疑ハナケレバナラヌ、即チ内閣ガ信ジラレザル結果、此衝突ヲ起シタ斷言スルコトガ出來ルデア、若シモ内閣ガ誠意ヲ開イテ過ヲ改メ、手落ガアツタナラバ、ソレヲ改メルノ云フコトニシタナラバ、斯ノ如ク衝突ガ激烈ニ至ラザル前ニ、疏通ヲ開クノ途ガアツタ、誠ニ惜ムノデアリマス、元來今ノ内閣ハ、實ニ全國ノ多數ニ信ヲ失ツテ、居ルデア、東京市ノ如キ日々ノ出來事ニ附イテ、内閣ガ其監督ノ如何ニ怠ツタカ、本員ガ數日內ニ質問ヲ致サウト思フコトハ、明ニ分ルノデア、此不信用ニナリ至ツタト云フコトガ、即チ反射シテ、此衝突ヲ起ス一部ノ原因ト爲タト思フノデア、案其物ニ對スル不信用、内閣其モノニ對スル不信用、内閣ノヤリ方ニ對スル不信用ガ、即チ一部ノ原因デアルト云フコトハ、決シテ誣罔ノ言ニアラズト信ズルノデア、内閣ガ上ニ信ヲ取リ、下ニ信ヲ取ルニ足ルナラバ、未來約束ヲセラレタ行政ノ刷新、財政ノ整理ト云フコトガ、幾分カ此案ノ通過ヲ助ケタニ相違ナイガ、公ニ宣告セラレタ其宣言ガ、殆ド其根柢ヨリ破レテ居ル、過去ノ宣言ガ信ゼラレナケレバ、未來ノ宣言ガ亦覺束ナシト云フコトハ、人情已ムヲ得ザルコトデア、然ラバ、整理シテ後ニ協贊ナシヤウト云フ辭ガ出テ居ルノデア、當然デアラウト思フ、星君一派ハ過去ニ信用ヲ置カレテ居ルガ、日本全國多數ノ人民ハ、過去ニ附イテ決シテ信用ヲ置イテ居ラヌ、然ラバ未來ニ行政ヲ刷新シ、財政ヲ整理スルト云フコトハ、幾許ノ用ヲ置クコトガ出來ルカ、貴族院ガ整理シタ後ニ協贊ヲシヤウト云フノハ、誠ニ本員ノ心ヲ獲テ居ルト思フ、本院ガ先日此案ヲ貴族院ニ回ス前ニ、衆議院ニ議シタルトキ、多數ノ方ハ贊成デアツタガ、本員ハ整理刷新ニ重キヲ置イテ、未來ノコトニシタイト云ウタノハ、即チ此事デゴザイマス、而シテ貴族院ノ議場ニ於テ、左様ナルコトカラ此衝突ヲ惹起シタトスレバ、其實ハ内閣ニ過去ノ事實ニ照シテ、其責ヲ分タナケレバナラヌト考ヘル、是等ハ連枝ニ涉ル論デア、案其物ニ附イテモ遺憾ニ思フノハ、此時「モウ宜イ加減ニヨシタマイ」ト呼フ者アリ、本員ハ飽クマデ論ゼナケレバナラヌ、若シ聽クニ倦ンダル御方ハ席ヲ御離レニナツテモ、聽キ得ル人ヲ相手ニシテヤリマス、此今日恐懼ニ堪ヘヌ所ノ勅語ハ、如何ナル門戸ヲ經テ出デタカ、其手續ハドウデアツタカ、其手續ガ即チ問題デア、星君ハ増稅案其物ニ附イテ論ゼラレテ勅語ノ可否ヲ議シメント云フ、危險極マル議論ノ法ヲ以テ、衆議院ニ威嚇ノノ舉動ヲ示サレマシタガ、本員ハ平然トシテ論ズルモノハコ、デナイ勅語ノ出ツル門戸ハ如何ニ出タカ、問題デア、勅語ハ内閣大臣ノ手ニ據テ、出デシニモアラズ、内閣大臣ノ副署ニ據テ出デシニモアラズ、内閣大臣ノ奏請ニ據テ出デシニモアラズ、詰リ宮内大臣ノ參列シテ貴族院議長ニ直ニ

賜タル、憲法立ッテ以來誠ニ珍シイ勅語ヲ賜タルデゴザイマス、此門戸ガ議  
論ノ要點デアッテ、前ニ引用シタル首相ガ自ラ書カレタ憲法ノ註解ニ、其門  
二ニモスト云フ、アレガ緊要ノ文字ナリト理解スレバ、此勅語ノ出タル  
道行、即チ其門戸ノ如何ナルコトデアルト云フコトガ、問題デハナイカト思  
フ、貴族院議長ニ賜タルトキニ列席シタル者ハ、内閣大臣ニアラズシテ宮  
内大臣デアッテ承ッテ居ル、茲ニ至ッテ責任ノ不明ナルコトヲ感シナケレ  
バナラヌ、立憲政治ニ尊ブ所ハ、大閣大臣ノ責任ト云フコトデアアル、此事ハ  
本員ガ唱フルニアラズ、先輩ガ既ニ唱ヘ來ッタル居ルノデ、憲法ノ取調ニ與  
タ首相ガ、丁寧懇切ニ示サレタル事柄デゴザイマス、責任ノ不明ヲ感ズル、  
或人ガ副署ノナイ勅語ヲ貴族院議長ニ對シテ、如何ニシテ賜タルカラ首相  
ニ問合シテ、首相ガ之ニ答ヘテ内閣大臣ノ奏請シタルモノデモナケレバ、  
大臣ノ手ヲ經由シタルモノデモナイ、併ナガラ責任ハ受ケルト云フコ  
トヲ明言シタル云フコトデ、ソレデ責任論ハ片附イタヤウデアアル、ソコデ本  
員ハ責任ノ不明ナリト論ズルコトガ片附イタ問題ヲ更ニ不明ノ渦中ニ入ル  
ルヲ疑フナラバ、本員ハソレニ向ッテ答辯スル責ガアルト思フノデ、抑、大臣  
ノ責任ノ如キ、誠ニ大切ナルハ問フ俟タズ、答フルヲ俟タズ、明瞭ナルモノ  
デナケレバナラヌモノト思フ、憲法ニ書イテ云々トアッテ——副署ガアッテ門  
ヲ二ツニセズ、大臣ノ奏請ガアッテ責任ト云フヤウナコトノ常ニ規定ガ定  
テ居レバ、唯今ニ至ッテ貴族院議長ハ、最モ議長トシテ典例ニ明ナル人デ  
ナケレバナラヌ、又首相ハ從來ノ經歷ニ據リ、唯今ノ位置ニ據リ憲法ニ明瞭  
ナル見解ノアル人ト、本員ハ信ジデ居ル、然ルニ貴族院議長ガ責任如何ト云  
フ問フ發シタルハ不明デアアルカラ、必要ヲ生ジタルデアアルマイカト思ヒ  
マス、首相ハ是等ノ責任ハ吾々ガ負フト云ッタル、此責任問題ガ定ッテ——定  
ルトシテ曖昧模稜ノ中ニ、此憲法ノ責任問題ヲ沒スルハ、誠ニ國民トシテ遺  
憾極マル次第デハナイカト思フ、是ヨリ以上ニ至ッテハ、本員ハ論ズルニ忍  
ビナイガ、一端ヲ諸君ノ御參考ノタメニ論ジマスレバ、貴族院ノ後ノ決議ハ  
自ラ信ジタル說ニアラズシテ聖慮ヲ推シ量リテ、其御心ヲ安シ奉ル一片忠  
良ノ精神ニ出デタルモノト、本員ハ認メマス、前ニハ政治上ノ問題トシテ利  
害得失ヲ論ジ、後ニハ臣子ノ分トシテ非常ニ過ッテ、之ヲ速ニ決シタルト解  
釋シタルバ、前後ノ決議ノ岐ル、所ガ分明ニナルト思フ、天下又斯ノ如ク解  
釋スル人ガ多イト信ジテ居ル、後ノコトヲ繰返シテ申シマスレバ、臣子ノ情  
ニ出デタルモノデ、利害得失ヲ打算シテ、政治ノ觀念ニアラザルヲ認メルノ  
デ、仰ヲ畏ミ、御憂ヲ安シ奉ル、忠義ノ情カラ出タモノデアアル、情ハ分析  
シ得ナイ問題デ、論理ハ分析シ得ベキモノデアアル、情ハ分析スベカラズ——  
論法ハ分析シ得ルガ、詩歌ハ分析スルコトノ出來ナイモノデアアルト同ジデ、  
一片忠義ニ厚キ所ノ情カラ出タモノデアアルカラ、之ヲ分析セントシテ分析ス  
ル能ハザル論理以外ノモノデアアル、即チ情ノ問題デアアル、貴族院ヲシテ政治  
上デ爭フノデナク、臣子ノ分トシテ、情ヲ以テ思召ヲ畏ムニ至ラシメタル門戸  
ハ何デアアルカ、前ニ申シタル通大臣ノ手ヲ經由シテ出タモノデアアルガ、誠ニ之  
ヲ拜讀シテ恐懼ニ堪ヘナイ、畏クモ、陛下ニハ「朕ガ日夕ノ憂ヲ分チ云々」ト  
詔ラレタルニ附イデハ、貴族院議員諸氏ト雖モ亦大ニ恐懼戰慄ニ堪ヘズシテ  
油然タル感覺ガ直チニ起ッテ、是マデ火ノ如ク燃ヘテ居ッタルモノヲ、恰モ水

ニ打タレタル如ク、臣子ノ分トシテ然ルベキ結果ト本員ハ解釋シテ、貴族院  
デ前ノ侃々たる議論ヲ答メズ、後ノ溫々たる決議ヲ答ムルコトガ出來ナイノ  
デアアル、然ルニ星亨君ハ、此一ツノ物ヲ混同シテ論ゼラル、ニ至ッテハ、殆  
ド臣子ノ情ヲ解セザル所ノ言論デアアルマイカト、本員ハ頗ル其出所ヲ疑フ  
ノデアアリマス、斯ウ云フ具合ニナッテ、其間ニ内閣ハ如何ナルコトデアザイ  
マスカ本員ノ唯今理解シタル所ニ據リマスレバ、解釋ヲ俟タズ明ナラザル所  
ノ憲法ノ明條ハ、貴族院議長ノ問ト、首相ノ答ニ據ッテ漸ク吾々ノ理解シ得ル  
ダケノ光明ヲ恢復シタルト云フ譯デゴザイマスレバ、一旦甚ダ紛晦デアッタル  
云フ、風雨晦暝ノ現象ヲ生ジタルト云フコトハ、誠ニ恐懼ニ堪ヘヌコトデア  
アル、然ルニ貴族院恐懼スベクシテ、衆議院恐懼スルニ足ラズト、星君ガ政友  
會ヲ代表シテ言ハレタルト云フコトハ、政友會諸君ノタメニ、甚ダ私ハ惜ム所  
デゴザイマス、尙ホ本員ガ論ジナケレバナラヌコトガゴザイマス、ソレハ斯ウ  
云フコトデアアル、古今ノ變化ヲ顧ミマシテ、甚ダ感慨ニ堪ヘヌコトデア  
イマスカラ、其事ヲ申シマスレバ斯ウ云フコトガアル、矢張前ニ引用致シマ  
シタル所ノ、憲法義解ノ中デゴザイマスガ、昔シ太政官ヲ立デ、總テノ職責ガ  
定ッテ、言ヲ薦メル所ノ臣モアレバ、詔勅ヲ奉行スル臣モアッタガ、其後世ガ  
變化シテ、斯様ナルコトガ現出シタル書イテアル「其ノ後重臣專ラ大政ヲ關  
白シ宮禁ノ中藏人ノ小臣亦王命ヲ出納シ院宣内旨或ハ女官ノ文書ヲ以テ大事  
ヲ下シ行フニ至ル而シテ朝綱全ク廢レタリ」憲法未ダ立タザル以前ト雖モ、  
官職ノ明ナルトキニハ、王政天下ニ明デアッタガ、其後亂レタカラ朝綱全ク  
廢レタリト云フコトヲ書カレタ、此書カレタ首相モ感慨ニ堪ヘナカッタデ  
アラウ、本員ハ之ヲ引用シテ諸君ノ前デ讀ムニ當ッテモ、甚ダ感慨ニ堪ヘヌ  
ノデアアル、即チ同ジク聖旨デアッテモ、之ヲ奉行シ、之ヲ世ノ中ニ出シマ  
スル所ノ、軌道門戸ト云フモノガ、確トシテ居ラナケレバ、決シテ明ナル所  
ノ聖慮ヲ、世ノ中ニ明ナラシメテ、盛德ヲ天下ニ被ラシムルコトガ出來ナ  
イ、昔王道ノ廢レタルノハ、宮禁ノ中藏人ト云フ小役人ガ王命ヲ出納シ、院宣  
内旨等種々ナル名稱ノ下ニ、或ハ女官ガ文書ヲ以テ大事ヲ行フニ至ッテ、朝  
綱全ク廢レタリトアル、此事タル憲法未ダ立タザルトキニデモ、濫ニ奉  
行スル所ノ門戸ノ多イコトハ、戒メテゴザイマス、況ヤ今日ノ如ク憲法既  
ニ立ッテ、其責閣臣ニ在リト明定セラレタル以上ハ、閣臣ヲ措イテ元老  
ノ奔走致シタルノハ、甚ダ立憲史上本員ハ遺憾ト思ヒマス、何故ニ内  
閣大臣ハ之ヲ制止セザリシカ、又副署ナキ詔勅ガ出ル、貴族院議長  
ガ問ウタノニ首相ガ答ヘタルト云フ、往復ノ註解ヲ以テ、始テ憲法ノ明條ガ  
漸ク暗キヨリ、明ルキニ恢復シタルト云フコトモ、立憲史上甚ダ惜ムベキ事  
蹟デアラウト思ヒマス、此ノ如ク岌々タル一縷萬鈞ヲ繫グ如キ憲法ノタメ  
ニ、危險ヲ與ヘタルト云フコトハ、實ニ恐懼ニ堪ヘヌコトデアアル、且又星君ハ  
斯様ナルコトヲ言ハレタ、憲法ハ大權ノ發動ノ一分デアアルガ故ニ、憲法  
ヲ以テ聖慮ヲ制限シ奉ルナド、云フコトハ、本員ハ說ニ於テ此主義ヲ不可  
ト言ハヌガ、併ナガラ、陛下ハ憲法ヲ決シテ輕ゼラレザル所ノ聖慮ハ、實  
ニ明デアゴザイマス、二十一年ノ憲法ヲ發セラレタルトキニ、如何ナル御辭ヲ  
賜リマシタガ、御自身ノ御發案ニ相違ゴザイマヒヌガ、天ニ誓ヒ祖宗ニ誓ヒ  
タマヒテ、此事ヲ永ク我子孫ヲシテ遵守セシメルト云フコトヲ仰セラレタ以

上ハ、御子孫ニ遵守セシメタル、祖宗ノ遺烈ニ依ツテ發セラレタル此憲法ハ、決シテ聖明ノ陛下ガ輕ク之ヲ御覽セラレテ、此條章ニ違フコトヲ善シト爲サルコトハ、山動キ川翻ルモ決シテ信ズルコトハ出來ナイノデアル然ルニ斯ノ如キ説ガ此衆議院ノ議場ニ發セラレ、ニ至ッテハ、亦同シ論ヲ執ル所ノ諸君ガ、之ヲ非難セラレザルニ至ッテハ、星君ノタメ、政友會ノタメ並ニ是ト主義ヲ同シクセラル、内閣ノタメニ、深ク遺憾ニ思フノデアル陛下ハ尙ホ朕ガ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシト、二十二年ノ勅語ニ觸ルシテ日ノ如ク掲ゲテゴザイマス、之ヲ輕カラシムル所ノモノハ、日本ノ臣民ニアラズ、之ヲ輕カラシムルモノハ實ニ帝國ノ憲法ニ背キ、併セテ陛下ノ聖旨ニ戾ル所ノ罪人ナリト本員ハ明言シヤウト思ヒマス、然ラバ此問題タルヤ、決シテ政友會一部ノ問題ニアラズ、何時變ルカモ知レヌ所ノ、内閣ノ脊負テ立ツベキ問題ニアラズ、又選舉ニ據テ變ル所ノ、衆議院ノ其人ニ就イテノ問題ニアラズ、況ヤ政友會若クハ進歩黨ナド、云フヤウナ、此一部ノ人ノ感情ノ爭ニ此問題ヲ沒スルト云フコトハ、甚ダ忌ハシキコトデアツテ、我臣民トシテモ、代議士トシテモ、亦内閣トシテモ、總テノ事ヲ忘レテ憲法ノ正條ヲ明確ニスルコトヲ力メ、苟モ此憲法ノ明條ニ違ウタル行動ガアツタナラバ、鼓ヲ唱シテ均シク之ヲ攻ムベキ責任ガアルト本員ハ思ヒマス、本員ガ即チ此案ノ發議者ト爲リ、此案ノ説明者ト爲リ、併テ反對ノ人ニ向ッテ本案ヲ説明致シマス、唯今申上グタ通デゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 大岡育造君

(大岡育造君演壇ニ登ル)

○大岡育造君(二百六十番) 本員モ鳩山君其他ノ御提出ニナリマシタ所ノ、政府不信任ノ決議案ニ反對致ス者デゴザイマス、是マデ當議會ニ現レマシタ所ノ不信任ノ問題ハ、常ニ政府ガ國民ノ意向ヲ重ゼズ、若クハ之ニ反スル所ノ行動ヲ爲シタル場合ニ於テ出タモノデアル、然ルニ今回ノ決議案タルヤ、政府ガ上ノ聖意ヲ奉戴シ下ノ國民ノ一致ヲ以テ可決シタル所ノ増稅案ガ、偶、貴族院ノ障礙ヲ蒙ツタル所ノ結果カラ、此決議案ヲ招クニ至ッタルデア、則チ此政府ハ國民ノ一致ト聖意トニ適フタル結果、偶、以テ貴族院ノ容レザル趣ノアツタタメニ、衆議院カラ不信任ノ決議ヲ受ケルト云フコトニナツタノデアアル、何タル現象デゴザイマスカ(其所作ガ惡ルイカラ言フノデアアル)ト呼フ者アリ、而シテ此問題ハ其論辯スル所ヲ聽ケバ、所謂政治上ノ問題ニアラズシテ、則チ行政上ノ問題ニアラズシテ、憲法上ノ爭議ト爲シタノデアアル(其通)ト呼フ者アリ、其憲法ノ爭議トシテ如何ナル點ヲ爭フカト云ヘバ、憲法ノ運用ノ巧拙ヲ謂フニ過ギナイト思フノデアアル、尤モ説明者ノ中ニハ、殆ト之ヲ以テ憲法違反トモ言ハレヌヤウニ思フ、是ハ私ガ諸君ノ清聴ヲ煩シテ、是非極メタイ問題デアアルノデアアル(謹聽)ト呼フ者アリ、此問題ハ憲法上ノ問題デハゴザイマスルケレドモ、茲ニ來ル所ノ事實ノ經過ハ、是ト伴ハザルコトヲ得ヌノデアアル、即チ鳩山君ノ説明ト、島田君ノ辯論トハ、併テ私ハ之ヲ聽クガ宜カラウト思フノデアアル、之ヲ聽キマスルニ當ッテハ、此内閣成立ノ以前ノ有様カラ、概略ニ考ヘテ見ルコトガ、宜カラウト思フノデアアル、十四議會ノ閉會後、間モナク北清ニ意外ナル大事件ガ生シテ、之ガタメニ多クノ軍隊ヲ彼地ニ送ラナケレバナラヌ、各國ノ聯合動作モシナ

ケレバナラヌト云フガ如キ、大事變ガ起ッテ、幸ニ我 陛下ノ軍隊ハ名譽アル行動ヲ致シテ、所謂戰時的ノ動作ハ一旦結了致シマシタケレドモ、外交ノコトハ今尙ホ樽俎ノ折衝ノ間ニ在ッテ頗ル面倒ヲ極メテ居ルノデアアル、此中間ニ在ッテ、前ノ内閣即チ山縣侯ハ其職ヲ辭シテ、今ノ伊藤侯ガ茲ニ起タレタノデアアル、此時既ニ財政ハ頗ル困難ヲ極メテ居ル、獨リ現内閣ガ見テ財政ノ困難ヲ知ツタノミデナクシテ、前内閣モ既ニ其困難ニ堪ヘズシテ、増稅ノ求ヲ爲サントシツ、アツタコトハ、掩フベカラザル所ノ事實デアアル、デ加フルニ列國ノ樽俎折衝ニ加フルニ、又或ル國ノ如キハ別ニ支那ト密約等ヲスルガ如キノコトモアツテ今日頗ル危險ナル趣ニ聞エル、現ニ亞米利加ノ如キハ、之ニ對シテ異議ヲ挾シテ居ル程ナ事情ニ迫ッテ居ッテ、所謂東洋危急ノ秋デアアル(ソナナ事ハ此問題ニ關係ハナイ)ト呼フ者アリ、此危急ノ場合ニ於テ、十五議會ノ開會ニナリマシテ、即チ劈頭第一軍資ノ必要ト、財政ノ整理ノ必要ヲ、我 天皇陛下ハ勅語ヲ以テ御示シニナツタノデアアル、斯ル危急ナル場合デアアルカラ、吾々國民ヲ代表スル者ハ、謹デ聖意ヲ體シテ此増稅案ニ贊成シタノデアアル、獨リ吾々即チ政友會員伊藤侯ガ率リ所ノ政友會員ガ、率、先之ニ贊成シタルノミナラズ、大隈伯ガ率ユル所ノ進歩黨モ亦大ニ之ニ贊成ヲシ、實ニ其進歩黨ガ分裂ヲスルコトニマデモ賭ケテ、分裂ヲ賭シテ目下ノ軍事ノ有様、目下ノ外交ノ有様、目下ノ財政ノ有様ニ於テ、之ヲ贊成シナケレバナラヌト云フコトヲ公ケニシテ、而シテ贊成シタル位ノコトデアアルデアアル(拍手スル者アリ)此ノ如ク衆議院内ニハ、政府黨モ在野黨ノ大ナル者モ併テ贊成シタル程ナ議案ガ、偶、以テ貴族院ノ迎フル所ト爲ラナカッタハ、吾々ノ甚ダ遺憾トスル所デゴザイマス、此際ニ於テ政府ハ貴族院ノ反省ヲ促スガタメニ上奏シテ一回ノ停會ヲ爲シ、其停會ノ後ニ勅語ヲ下ツタト云フコトガ、即チ本問題ニ關ルノ停會アル(ヒヤ)ト其問題ノ説明ヲスベシト呼フ者アリ)ソコデ諸君モ停會ト云フコトガ惡イト云フ意味ハナカラウト思フノデアアルガ、茲ニ説明セラルル所ヲ聽クト、停會ニ次グニ停會ヲ以テシ、遂ニ聖勅ヲ賜ルニ至ッタルハ、恐懼ノ至リニ堪ヘナイト謂フ、是ハ私ハ當然ナル政府ノ仕方デ、少モ批難ヲスルニ足ラスコトデアアルト思フノデアアル(ノウ)「ヒヤ」ト呼フ者アリ)ソレハ何故デアアルカト申シマシタナラバ、是ハ諸君モ少シ靜ニ御聽キヲ願ヒタイト思ヒマス、大體ニ於テ 天皇ハ自ラ政治ヲ爲サルモノデアアルカ、將タ閣臣ヲ以テ政治ヲ爲サルベキモノデアアルカト云フコトノ問題ガ、極マレバ分ルノデアアル、島田三郎君ハ憲法發布ノ當時ノ詔勅ヲ引カレテ、之ヲ子孫ニ傳ヘテ永ク守ラシムルト御趣意ガアル程デアツテ、如何ニモ大切ナモノデアアルト云ハレタ、勿論大切ナモノデアアル、實ニ所謂萬世不磨ノ大典デアアル、併ナガラ 陛下ハ如何ナルコトヲ子孫ニ御傳ヘニナルカト申セバ「國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ」國家統治ノ大權ヲ子孫ニ傳ヘラル、ノデアアル、子孫ニ傳ヘラル、ノデアアル 天皇ハ國家ヲ統治ナサル所ノ御方デアアルデアアル、而シテ立法ノ權ヲ行フニハ 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ、立法ノ權ヲ行フト書イテアル、天皇ハ自ラ政治ヲスルト同時ニ、帝國議會ノ協贊ヲ經タル法律ヲ發布スル、帝國議會ノ協贊ヲ經ルト云フコトノ要件ハ附イテ居ルカ、ソレハ 天皇自ラ政治ヲ爲サル、ト云フコトニ附イテ、何等ノ障礙ハナイノデアアル、若シ立憲政治ヲ間違ヘテ 天皇ハ唯尊クノミ在シマシテ、實

事ニハ御與リナキモノト解釋スルナラバ、大ナル誤解デアル、閣臣ト云フモノハ島田君ガ五十五條ヲ讀マレタルガ如ク、實ニ補弼ノ責ニ當テ其責ヲ負フ者デアル、補弼ト云ヘバムツカシイコトノヤウデアレドモ、補佐人デアル、補助人デアル、其、天皇自ラ政治ヲ爲サル共御手傳ヲ申ス所ノ人ニ過ギナイノデアアル、天皇ヲ唯高クミ見テ居テ、閣臣自ラ政治ヲ爲スト云フ憲法ハ、我日本ニハナイノデアアル、果シテ然ラバ、天皇ハ適當ナル時期ニ於テ停會ヲ許サル、條項ハ、無論諸君ハ異論ガナイノデアアル、停會ヲ命ズルニ異論ガナイト同時ニ、天皇ガ憲法ニ據リテ、立法上ノ協贊ヲ求ムル、其求ムルノ意思ハ開院ノ當日ニ於テ勅語ヲ示サルコトモ一ツデアアル、其意味ガ尙ホ徹底セザル場合ニ於テ、貴族院ヲシテ再ビ此意思ヲ想起サシムルガタメニ、開院當日ニ示サレタルノ趣意ヲ以テ、更ニ明瞭ニ御示シニナタト云フテモ同ジク、協贊ヲ求メラルル所ノ立法手續デアアテ、毫モ差支ノアルベキモノデハナイノデアアル、之ヲ要スルニ、天皇虛權ノ説ヲ信ズル人ガアッタナラバ、或ハ此ノ如クノ決議ヲ爲サルカモ知リマセヌケレドモ、今日ノ時代ニ於テ、マサカニ斯ノ如キコトハアルマイト思ヒマシタガ、何ゾ國ラン此決議案ガ茲ニ出ルト云フモノハ、相モ變ラズ、天皇虛權説ニ似タル所ノ説ヲ持ツ人ガアルデハゴザイマセヌカ、如何ニモ歎ハシイ次第デアル、天皇ガ勅語ヲ發シタルモノ何ノ不可ガゴザイマセウ、若シ之ガ憲法ノ條章ヲ反スコトガアッタナラバ臣民ハ御諫メ申スニ於テ異議ヲ申ストモ、決シテ不忠デハナイノデアアル、國運ガ今ヤ非常ノ危機ニ迫テ居ル時代ニ於テ、開院ノ始ニ於テ、親シク御示シニナタタル勅語ノ趣意ガ徹底セズシテ、國民ガ忍デ之ヲ仰通リト云フコトニ致シタニ拘ラズ、尙ホ中途ニ於テ阻礙セラレタルトキ、天皇自ラ此感ヲ解カセラレ、我國ヲ助クルノ方法ニ於テ之ヲ爲サル、ニ何カアラン(「ノウ、」ト呼ビ「ヒヤ、」ト呼フ者アリ)今此決議案ヲ提出シタル所ノ諸君ノ中ニハ、所謂英吉利憲法主義ヲ信ゼラル、所ノ人ガアルガ、蓋シサウ云フコトノ間違デハアルマイカ、私ガ聞ク所ニ據レバ、隨分斯ウ云フコトハムツカシイ問題デアアテ、英吉利ト云フ其本國デサヘ、隨分間違ノアルコトデアルト云ヒマス、私ハ茲ニ島田三郎君ガ古文ヲ引證セラレタ例ヲ藉リテ、極新シイ例ヲ一ツ諸君ノ前ニ提供シテ、本論ノ確メニ致サウト思ヒマス、千八百九十七年ニ、英吉利ノ國會デサリスバリー侯ガ上院デ爲シタル所ノ演説ガアル、「予ガ少年ノトキニ於テハ、世界ヲ舉ゲテ我皇ノ大權、我皇ノ君權ヲ以テ、有名無實ト爲セリ、予ハ今日ニ及シテハ此言ヲ聞クコト漸ク少シ、予ハ諸君ガ、此説ノ甚ダ誤レルコトヲ認ムルニ一致スルコトヲ信ズ、此説ハ實ニ全ク制度ノ運用ヲ知ラザル者ノ言ノミ、斯ウ云フコトガアル、ツレカラ之ニ對シテ、自由黨ノ首領デアル所ノキンバレンノ演説ガ、吾々皇室ヲ懲罰シテ有名無實ト爲スノ誤謬ハ、誠ニ侯爵ノ言ノ如ク、蓋シ誤ハ此誤ヨリ大ナルハナシ、我皇ハ常ニ其祖宗ト其強大ナル勢力ト一切ノ國勢ニ用ヒ賜フナリ」英吉利デサヘモ斯ノ如キモノデアアルカラ、吾等欽定憲法ノ主義ニ於テ、陛下ガ國家危急ノ場合ニ於テ、感ヘル所ノ人々ヲ正道ニ御導キニナルト云フコトハ、實ニ當然ノコトデアアル、之ニ向テ、陛下ニ「詔勅ヲ御出シニナルヤウナコトガアッデハ、恐懼ノ至ニ堪ヘヌト云フノハ、以テノ外ノ次第ト私ハ慨歎セザルヲ得ヌノデアアル、唯併ナガラ私ハ此處ニ言フコトヲ得ル、此案ノタメニ恐入

ルコトハ、丁度諸君ガ恐懼ニ堪ヘズト書クト云フ意味ト同ジヤウニ、日本ハ日本ノ例ノアルコトモ考ヘナケレバナラヌ、而シテ又今ノ内閣ノ人ガ大層能ク出來タカト云フナラバ、決シテ大層能クハ出來ヌノデアアル、勿論有ラユニ仕事ガ如何ニモ、陛下ノ御意ヲ享ケタル儘ニシテ、直チニ行ハル、ヤウニ取計フナラバ、ツレ程良イ内閣ハナイト私ハ申スコトガ出來ル、併ナガラ大ナル事件ノ生シタル場合、國歩艱難ナル場合ニ於テ、元首ガ其局ニ立テ之ヲ導キタマフガタメニ、閣臣ハ無能ナリト云フコトハ出來ナイ話デアアル、獨逸ノ議會ニ於テ、一昨年海軍擴張ノ場合ニ於テ、皇帝ハ自ラ議會ニ出テ演説ヲシテ居ル、其時分ニ總理大臣ハ辭職シタカト云フニ、決シテ辭職ハシナイ、諸君ハ總理大臣ヲ餘リ重ク見ル、内閣ヲ餘リ重ク見テ、何事デモ内閣大臣ハ爲シ得ルモノト心得テ、憲法ノ條章ノ甚ダ明ナルモノアルニモ拘ラズ、閣員ガ何デモシテシマハナカッタトキニハ、政治ハ成立タヌガ如ク心得ルノハ、閣員ヲ買破リ過ギタノト、諸君ガ憲法ヲ誤解シタニ過ギヌノデアアラウト思フノデアアル、島田君ガ言フヤウニ、我此内閣ニ稅政ガアルナラバ、其稅政ヲ舉ゲテ之ヲ質問スルモ宜カラウ、決議モスルガ宜カラウ、將タ上奏スルモ宜カラウト思フノデアアル、議會開ケテ以來茲ニ二十餘年ノ間、屢起ル所ノ爭議ハ常ニ衆議院ト政府トノ間ニアッテ、衆議院ナルモノハ國民ヲ代表スルノ府デアアテ、我國民ハ世界無二ノ忠君ナルモノナルニ拘ラズ、常ニ聖慮ヲ惱マシ奉ルノ趣ヲ備ヘテ居タルノハ、久シク私ガ慨歎ニ堪ヘナカッタノデアアル、然ルニ今度始テ貴族院ニ賜ル所ノ詔勅ニハ、此時勢ノ艱難ナル場合ニ於テ、衆議院ハ先ヅ之ヲ可決シタリト仰出シニナタタ程ニ、吾々ノ意思ガ天聽ニ達シタルコトハ、誠ニ嬉シキコトノ限デハアルマイカ、進歩黨ガ己ノ黨派ノ分裂ヲ期シテヤタル其案ガ、御蔭ニ據テ通過テ國務ヲ助ケルコトガ出來タト云フナラバ、喜ビコソスレ、胡爲ゾ其黨ノ政務委員ガ出テ、此ノ如キ矛盾ナコトヲ致スデゴザイマセウカ、果シテ然ラバ國務ヲ憂フルコトガ、マダ足ラナイト申上ゲナケレバナナルマイト思フ(拍手起ル)斯ノ如キノ私ハ見解ヲ持テ居ルカラ、此政府ハ完全無缺トハ思ヒマセヌ、併ナガラ此決議ハ全ク憲法ノ誤解カラ出タルモノト思ヒマスカラ、行政上ノ問題ヲ以テ、再ビ御論シニナタタラ、或ハ御贊成スル時期ガアルカモ知レヌノデアアル

〔討論終結〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 原田越城君

〔討論終結〕ト呼ビ「贊成々々」ト呼フ者アリ

〔討論終結〕ト呼ビ「贊成々々」ト呼フ者アリ

○原田越城君(八十三番) 諸君、本員ハ提出者ノ一人トシテ、意見ヲ述ブル積デアリマスガ、既ニ本員ノ言ハント欲スル所ハ、殆ド申盡シテ居リマスカラ、極テ簡短ニ申述ブル積デアリマス(「謹聽」ト呼フ者アリ)其意見ヲ述ブルニ方デ、一言致シテ置キマスガ、御承知ノ通本員ハ是マデ個人トシテハ勿論、又議會ニ於テモ現内閣員等ト、何等ノ感情ノ衝突等ハナイモノデアアル、元來本案ヲ提出スルニ至リマシタノハ、是マデ島田君ナリ島田君ニ於テ、續々連ベラレマシタルコトノ如ク、眞ニ已ムヲ得ズ出シマシタモノデアリマス、反對ノ演説トシテ、星君大岡君カラ續々連ベラレマシタゴザイマスガ、土臺増稅案ト、此度ノ宸襟ヲ惱マシ奉リタルコト、二ツヲ混淆シテ論ジテ居リ

マスカラ、吾々ノ提出シタ所ノ理由トハ、大ニ合シテ居リマセヌノデアリマ  
ス、是ハ増税案ハ増税案ナリ、此度ノ事件トシテ論ヲシナケレ  
バナラヌノデアアル、本員等ハ固ヨリ此増税案ノコトニ附イテノミデハナイノ  
デス、然ルニ星君ガ幾々述ベラレマシタル中ニ、默過スベカラザルコトハ、  
貴族院ニ諮詢ガ下ヲトテ言フテ、何故ニ此衆議院ガ恐懼スルカ、ツレハ獨リ  
貴族院ノ諮詢ガ下ナル、是ハ蓋シ星君ノ失言デアラウト思フ、苟モ宸慮ヲ懼マ  
シ奉ルコトガ、此立法部ノ一部ニ在ル、ツレヲ以テ衆議院ハ、何ノ恐懼スル  
所ガアルカト云フ思慮ヲ持ツ者ハアルマイ、全ク是ハ星君ノ失言デアラウ、  
ツレカ又今一ツハ此決議案ナルモノハ諮詢ノ當否ヲ論スベキモノ、性質デ  
アル、斯ノ如キ言ヲ吐カレテ居ル、本員等ハ大權ノ御發斷ニ寸毫ノ言議ヲ試  
ミントスル者デハナイ、又試スル要ノナイ者デアアル、然ルニ斯ノ如キ言ヲ  
吐カル、是レ亦失言デアラウト思ハレル、唯一ツ星君ノ述ベラレタ中デ、  
政府ハ十分ニ責任ヲ負シテ居ル、斯ウ云フ議論デアアル、政府ガ十分ニ責任ヲ  
負シテ居ルナラバ、何故ニ閣員ハ進退同ヲ捧呈サレタノデアアルカ、大岡君ノ  
論ヲラレマシタルモノニモ、此諮詢ヲ賜リ何ノ憂フル所ガアルカ、幾度アルモ差  
支ナイデヤナイカ、果シテ斯ノ如クデアアルナラバ、閣員ハ何故ニ進退同ヲ捧  
呈セラレタノデアアルカ、全ク星君ノ意見ト、大岡君ノ意ト、内閣員ノ意見ト  
云フモノハ、丸ルデ正反對ヲ致シテ居ルノデアアル、實ニ是ハ奇觀ト言ハナケ  
レバナラヌ(モウコレマ「モ」ト呼フ者アリ「モ」トヤレ「ト」呼フ者アリ)  
極簡短ニ致シマスガ、暫ク御待チテ願ヒマス、此新聞ニ傳ヘラレテ居ル  
所ノ伊藤首相ノ進退同ナルモノヲ事實トシレバ、星君ト大岡君ト論ズルコト  
ハ、全ク正反對ニナラシメ居ル、其證據トシテ此進退同ヲ朗讀シテ見マス  
旨ヲ奉シテ國家必要ノ軍費ヲ支辨シタニ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシメムカ  
増税ニ關スル諸法律案ヲ編シ、允裁ヲ蒙リ帝國議會ニ提出ス而シテ衆議  
院ハ之ヲ可決シタルモ貴族院ニ移サル、ニ及ヒ頗ル其通過ヲ難スルノ狀勢  
アリ爲メニ宸慮ヲ勞シ竟ニ勅語ヲ貴族院ニ下サル、ニ至ル臣任調鼎ニ  
在リ鹽梅道ヲ愆ル誠ニ恐懼ノ至ニ堪ヘス茲ニ謹ミテ進止ヲ請フ臣博文誠恐  
誠懼頓首頓首

是デ星君ノ演說ト大岡君ノ演說トハ、全ク此内閣員ノ意見ト、正反對デア  
ルト云フコトハ明デアアル、内閣員ハ既ニ此度ノコトニ附イテ、輔弼ノ責ヲ缺イ  
テ居ルト自信シテ居ルノデアアル、吾々モ亦斯ノ如ク見デ居ル者デアアル、大體  
ニ於テハ同一ノ意見デアアル、唯之ヲ進退同ニ止メテ置クカ、進デ何故ニ辭表  
ヲ捧呈シナイカ、程度ニ附イテ意見ノ異ナルマデノコトデアアルノデアアル、ツ  
レハ鳩山君モ述ベラレマシタル如ク、臣調鼎ニ在リ鹽梅道ヲ愆ル、是ハ漢語デ  
書イテアルガ、今日ノ普通語ヲ以テ之ヲ解釋致シタナラバ、如何ナル意味ニナ  
ルカ、如何ナル意味ニ是ハナナルモノデアアルカ、或ハ臣職ニ在ッテ、其職責ヲ  
盡サストモ解サル、ノデアアル、又國務大臣デアッテ、憲政ノ運用ヲ愆リ  
誠ニ恐懼ノ至ニ堪ヘズトモ、解釋スルコトガ出來ルデアラウト思ハレル、既  
ニ斯ノ如ク輔弼ノ大臣トシテ、輔弼ノ任務ヲ自ラ盡サレナイト云フコトヲ認  
メナラバ、其憲法發布前ニ在ル進退同ナド、云フモノヲ提出シテ、低トシテ  
居ラルベキ答ノモノデナイ、抑進退同ナルモノハ、如何ナル性質ヲ持ッテ  
居ルモノデアアルカ、是ハ下僚ガ上長ニ對シテ進退同ヲ提出スルノ例ガアル、  
ツレ等ニハ各、其進退同ニ對シテ、處分スルノ法モアル、唯自ラ職責ニ副ハ

スト云フコトヲ覺悟リナガラ、其進退ヲ聖斷ニ仰グ、即チ其責任ヲ 陛下ニ負  
ハシ奉ルモノデアアル、斯ノ如ク國務大臣ガ職責ヲ重ゼサルノ結果トシテハ、  
種々忌ムベキ現象ガ、此政治界ニ現レルデアラウト思ハレル、其一二ノ例ヲ  
舉ゲテ見マスルト、此議院ニ現レルコトデアアル、即チ先般佐々君ガ内閣ノ責  
任ニ對シテ質問書ヲ提出サレタ時分ニ、内務大臣ハ大臣ナルモノハ、國家ノ  
大局ニ注目シテ、斯ノ如キ一省一部ノモノニ頓著シナイ、果シテ其結果ハ如  
何デアアルカ、若シモ内閣員ガ自ラ信ヲテ提出シタ所ノ、其議案ニ附イテ其公  
會ノ席ニ於テ、其意思ヲ發表シ共通過ヲ務メタランニハ、今日ノ如ク司法官  
ノ増降ナド、云フ忌ハシキコトハ、世ノ中ニ現レヌデアラウト思フ、是レ何  
故ニ斯ノ如キ現象ヲ惹起スカ、總テ其責任ノ重シゼザルノ致ス所デアアル、吾  
ハ協賛ノ任務ヲ持ッテ、斯ノ如キ場合ニ遭遇シ、職々ニ付テ去ルト云フコト  
ハ、矢張本分ニ背ク譯デアアル、要スルニ吾々ノ此國務大臣ノ職責ナルモノハ、  
頗ル重ズベキモノデアアル、又國務大臣ハ此自ラ大臣ノ職責ヲ缺キ、誠ニ恐懼  
ニ堪ヘズト自覺レナガラ、一片ノ形式ノ進退同ニ於テ安ズルモノデアアル、  
要スルニ此責任ヲ吾々ハ重ク見ル、閣員ハ責任ヲ輕ク見ル、ツレダケノ程  
度デアアル、本員等ハ此閣員ガ責任ヲ重ゼザル結果、種々はヨリ此政治上官  
紀ノ紊亂ヲ來レ、現ニ目撃スルコトガ續發スルニ至ッテハ、益々宸慮ヲ煩ハシ  
奉ルニ至ル、實ニ臣民ノ分トシテ、默々ニ付スルコトガ出來ヌモノト確信  
スル、故ニ本案ヲ提出シ其理由ヲ、諸君ノ御希望ニ依リ極テ簡短ニ申上タマシ  
タ

(内閣總理大臣侯爵伊藤博文君演壇ニ登ル)

○内閣總理大臣(侯爵伊藤博文君) 議員諸君、唯今本院ニ提出サレテアル  
所ノ決議案ニ對シテ、一言所見ヲ述ベマス、鳩山君ノ演說以來、段々提出  
ノ理由ナルモノハ承ツタノデアリマスガ、事實貴族院ト政府トノ關係ニナッテ  
居ルコトガ多ク、衆議院ハ政府ト貴族院トノ關係ヲ定ムル場所トハ認メヌノ  
デアアル、是ハ政府ト貴族院トノコトデアアル、諸君ガ如何ニ之ヲ解釋シテ決  
シテ欲スルトモ、是ハ關係ガ違フノデアアル、又モウ一ツニハ此場所ガ憲法解  
釋ノ講義ノ場所デナイ、ワンナコトニ時日ヲ費シテ居ル必要ガナイ、苟モ自  
分ハ帝國ノ總理大臣トシテ、此場ニ臨ムモノデアアル、故ニ衆議院ノ議員諸君  
ガ、如何ナル黨派デアラウガ、我政友デアラウガ、ナカラウガ、我眼中ニ於キテ  
ハ一樣デアアルノデアアル、政府トシテ此議院ニ臨ムノデアアル(憲法破壞伯)  
呼フ者アリ)憲法破壞ト仰シタルガ、憲法ハ今日ニ存在シテ居ル、故ニ兩議  
院モ成立シテ居ルノデアアル、他ノ黨派デモ、政府ニ立ッテ政治ヲ行ウタトキ  
モアルデアラウ、殊ニ憲法ヲ立派ニ運用サレタカモ知レヌガ、時ノ艱險ニ依ッ  
テハ、種々ナ困難ガ出來ルモノデアアル、將來ニ於テモサウ云フコトガ澤山  
アルデアラウ、決シテ之ヲ以テ憲法ヲ破壞シタナドト云フ、自分ハ其觀念ヲ  
持タヌノデアアル、又自分ガ 陛下ニ對シテ進退ヲ伺フナドト云フ議論ガアツタガ、苟  
唯今原田君ノ下僚ガ上官ニ對シテ進退ヲ伺フナドト云フ議論ガアツタガ、苟  
モ輔弼ノ大臣ニ當ル所ノ國務大臣ガ 陛下ニ對シテ進退ヲ伺ヒ奉ルノハ、斯  
ノ如キノ輕シキコトデハナイ、左様ナ自分ハ考ヲ持ッテ進退ヲ伺フタノ  
ハナイ、又其進退ヲ伺ウタ以來、 陛下ヨリ決シテ其議ニ及バヌ、職ニ居レト  
云フ御沙汰ヲ蒙リテ居ルノデアアル、敢テ多辯ヲ費ス必要ハナイ、併ナガラ政  
府ヲ相手トシテ、不信任ト云フ決議案ヲ提出サレタニ附イテ、段々論辯サレ

ル所ヲ聽イテ見レバ、諸君ノ決議ガ多數ニ決セラレルトキハ、ツレヲ以テ辭職シロト云フ譯カモ知レヌガ、併シ自分ハ、陛下ヨリ信任ヲ蒙リテ、今日輔弼ノ責ニ居ル以上ハ、諸君ノ議決ニ依リテ進退スルコトハ出來ヌノデアル、寧ろ予ハ反對ニ、此案ニ贊成ノ諸君ニ對シテ勸告セント欲ス、ツレダケノ御考ナレバ、此議案ヲ變シテ寧ろ陛下ニ上奏シテ、内閣ノ不信任ヲ訴ヘラレテハドウカ、其權能ガアリサウナモノデヤナイカ（「ドチラデモ宜シイ」ト呼フ者アリ）  
○御勸告スル、苟モ今日ノ時勢ニ當リテ、政府ニ立ッテ此大任ニ當ル者ガ、サウ云フ薄弱ナ考デ當レルモノデハナイ、又島田君ノ論ニ元老云々ト云フコトガアツタ、恐ラク元老云々ノコトハ、貴族院ニ於テモ是ト交渉サレタニ違ヒナイガ、是ハ表面立タヌコトデアラウト考ヘル（笑聲起ル）貴族院ニ於テ、是ト交渉サレニハ、貴族院モ決シテ是ハ憲法ニ妨ナイ、内所ノコト、考ヘテヤラレタコト、我輩ハ信ズルノデアル、諸君ガ言フガ如キモノデハナカラウト思フ、又我輩ハ萬機獻替ノ任ニ居ル以上ハ、朝夕陛下ニ拜謁ヲシテ天顏ニ咫尺シテ奏聞スルコトハ、百端アルノデアル（ツレダケカラ衰龍ノ袖ニ隠レルノダ）ト呼フ者アリ「謹聽セ」ト呼フ者アリ然レバ何ゾ必シモ、此節ノ貴族院ニ關係シタコトノミデハナイ、又當然ノ職務デアル是ハ已ムヲ得ヌ即チ其責任ヲ盡サント欲スレバ、自然ニ然ラザルコトヲ得ヌノデアル、又陛下ハ天職ヲ盡サセラレテ居ルノデアル、決シテ輔弼ノ臣ノ悉ク言フガ儘ニ遊バスト云フ筋ノモノデハナイ、諸君ハ常ニ咫尺セヌカラ、或ハ御承知ナイカモ知レヌガ（笑聲起ル）併シ極リ切ツタコト、仰シヤツテモ、サウハ參ラヌコトデアアル（宜イ加減ニヨシタマヘ）ト呼フ者アリ我輩ノ演説ヲ、此場ニ於テ禁ズル者ガアルナラバ、獨マヘテ（參考ニ云フノダ禁シハセヌ、君ノ身ノ上ノタメニ言フノデアアル）ト呼フ者アリ「默レ」ト呼フ者アリ唯議決位ノコトデハ、提出者ノ意思ガ甚ダ明瞭ナラヌ、憲法政治ニ於テ人ヲ斥ケント欲スレバ、十分ノ力ヲ盡シテ斥ケルガ宜シ、唯クスグル位デハ何モナラヌ、敢テ多言ヲ須弁テ、貴族院ト政府トノ關係ヲ茲ニ論究スル必要ハナイ、又憲法ノ講義ヲ爲スノ必要ハナイ、ツレハ他日閑暇ノトキニ於テ、何時デモ御相手ニナシテ研究ヲ致シマス

（討論終結）ト呼フ者アリ

○議長（片岡健吉君） 討論終結ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
起立者 多數

○議長（片岡健吉君） 多數ト認メマス、本案ノ採決ハ、記名投票ヲ以テセラレタイト云フ請求モアリマスカラ、記名投票ヲ以テ採決ヲ致シマス

（然リヤ）ト呼フ者アリ

○議長（片岡健吉君） 閉鎖 點呼ヲ致シマスガ、其前ニ御注意ノタメニ申シテ置キマス、決議案ニ贊成スル諸君ハ白札デゴザイマス、決議案ニ反對ノ諸君ハ黒イ札デゴザイマス、是ヨリ點呼ヲ始メマス

（書記氏名ヲ點呼ス）

○議長（片岡健吉君） 投票漏ノ方ハアリマセヌカ——投票漏ノ方ハナイト認メマス——閉鎖  
（書記官投票ノ數ヲ計算ス）

○議長（片岡健吉君） 投票ノ結果ヲ御報告致シマス  
（林田書記官朗讀）  
出席議員二百八十三  
可トスル者 百二十八  
否トスル者 百五十五  
（拍手起ル）

（參照）

贊成者氏名

|       |      |      |      |       |       |      |      |      |        |     |     |      |      |      |      |      |      |     |       |     |      |     |      |      |     |      |     |      |      |      |      |
|-------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|--------|-----|-----|------|------|------|------|------|------|-----|-------|-----|------|-----|------|------|-----|------|-----|------|------|------|------|
| 新開    | 富田   | 小山   | 平岡   | 門馬    | 星野    | 佐藤   | 寺田   | 野間   | 杉下     | 中野  | 四宮  | 島崎   | 鈴木   | 鈴木   | 加藤   | 竹内   | 大隈   | 内山  | 初見    | 秋保  | 木村   | 堀越  | 大津   | 今村   | 高岡  | 大村   | 山田  | 西田   | 伊藤   | 宮原   | 鳩山   |
| 木忠兵衛君 | 仙助君  | 久次郎君 | 萬次郎君 | 尚經君   | 甚右衛門君 | 里治君  | 彦太郎君 | 五造君  | 太郎右衛門君 | 武營君 | 有信君 | 雄三君  | 義明君  | 萬次郎君 | 政之助君 | 正志君  | 英世君  | 松世君 | 八郎君   | 親兼君 | 格之助君 | 寬介君 | 淳一郎君 | 千代太君 | 忠郷君 | 和吉郎君 | 順一君 | 收三君  | 直純君  | 幸三郎君 | 和夫君  |
| 有馬    | 並河   | 福田   | 高川   | 三田    | 江角    | 中山   | 高木   | 山田   | 孝次郎君   | 秋山  | 藤田  | 多田   | 武市   | 東村   | 天野   | 磯部   | 磯部   | 市島  | 鹽路    | 坂本  | 佐治   | 田中  | 鈴木   | 安川   | 關直  | 大矢   | 犬飼  | 藤澤   | 岡本   | 佐藤   | 西村   |
| 要介君   | 理二郎君 | 久松君  | 定次郎君 | 村甚三郎君 | 千代次郎君 | 平太郎君 | 正年君  | 喜之助君 | 孝次郎君   | 元藏君 | 正義君 | 通君   | 庫太郎君 | 賢太郎君 | 若圓君  | 藤兵衛君 | 八五郎君 | 謙吉君 | 彦右衛門君 | 金彌君 | 幸平君  | 正造君 | 重遠君  | 繁成君  | 直彦君 | 眞平君  | 眞平君 | 幾之輔君 | 松太郎君 | 伊助君  | 眞太郎君 |
| 申本    | 佐々   | 兒島   | 吉田   | 藤野    | 花井    | 堀田   | 内田   | 望月   | 三輪     | 安部  | 深尾  | 津誠   | 橋元   | 神元   | 須藤   | 原田   | 犬邊   | 星野  | 山田    | 箕浦  | 永田   | 前川  | 佐々   | 鹽田   | 石原  | 白井   | 田口  | 首藤   | 大塚   | 奈須   | 小栗   |
| 茂助君   | 友房君  | 惟謙君  | 源八君  | 長次郎君  | 卓藏君   | 連太郎君 | 雄藏君  | 長夫君  | 潤太郎君   | 磐根君 | 龍三君 | 誠一郎君 | 易君   | 知常君  | 善一郎君 | 城君   | 久米君  | 武富君 | 星三郎君  | 井上  | 廣瀬   | 河野  | 降旗   | 清水   | 金森  | 工藤   | 淺香  | 鞍谷   | 岡田   | 阿部   | 江藤   |
| 吉岡    | 廣住   | 小松   | 井上   | 中島    | 菊地    | 大石   | 大石   | 正己君  | 久間     | 四朗君 | 加藤  | 宗彌君  | 平岡   | 秋山   | 森川   | 島田   | 江島   | 武富君 | 高梨    | 井上  | 廣瀬   | 河野  | 降旗   | 清水   | 金森  | 工藤   | 淺香  | 鞍谷   | 岡田   | 阿部   | 江藤   |
| 直一君   | 久道君  | 喜平治君 | 源八君  | 祐八君   | 九郎君   | 義徹君  | 正己君  | 久間   | 四朗君    | 加藤  | 宗彌君 | 平岡   | 秋山   | 森川   | 島田   | 江島   | 武富君  | 高梨  | 井上    | 廣瀬  | 河野   | 降旗  | 清水   | 金森   | 工藤  | 淺香   | 鞍谷  | 岡田   | 阿部   | 江藤   | 新作君  |

此福岡ノ製鐵所へ、支那朝鮮カラ輸入スルモノデゴザイマス、是ガ矢張第一種ノ方ノ他ニ於テ、從價稅ニ仕拂ハナケレバナラヌコトニナル、前年度ニ於キマシテモ二万噸位輸入シテ居ル、此税金ハ一万八千圓位デアリマスガ、本

金ガ九十萬圓位デアリマシテ、此原價運賃其他ノ代價等ノ總額デアリマスル  
ガ、是ガ輸入稅デ八萬圓位ノ概算ニナリマス、門司デ仕拂ヒマスル、ソコデ  
是ハ免ニ免稅ノ方ニ加ヘマシテ、製鐵所ノ方ニモ、大ニ便利ヲ得ルコトニ  
ナルノデアリマス、而シテ之ヲ免稅ニスルカラト云ウテ、内地ノ鐵山鑛業等ニ  
決シテ差支ノナシ、當局者ニ於テモ内地ノ鐵山等ハ追々此途ヲ開キ進メテ往  
クト云フ方針デアリマスカラ、決シテ之ヲ免稅ニ致シテモ、内地ノ鐵山其他  
ニハ一向差支ハナシト云フコトデゴザイマスカラシテ、此場合此「コブテ」ヲ  
免稅ノ部分ニ入レマス案ニ、唯今述ベマシタ所ニ、鐵礦ト云フコトヲ加ヘテ、  
之ヲ一種カラ二種ニ移スト云フコトデゴザイマス、ドウカ諸君御賛成アラシ  
コトヲ望ミマス

○早川龍介君(二百一十一番) 賛成致シマシテ、二讀會ヲ以テ確定讀ニセラレ  
コトヲ望ミマス

○野尻岩次郎君(二百四十番) チョット質問シマス、唯今恆松君カラ提出ニ  
ナリマシタ、關稅定率輸入稅法中ニ一項ヲ加ヘル鐵礦トカハ、私ハ始テ聽イ  
タコトデアリマスカラ分ラヌ、之ニ附イテ政府委員ノ意見ヲ聽キタイ

○議長(片岡健吉君) 御質問ヲスルナラ、發言ナサデ宜シ

○野尻岩次郎君(二百四十番) 唯今恆松君ヨリ提出ニナリマシタ、關稅定率  
附屬輸入表中ニ一項ヲ加ヘル、鐵礦トカニ云フコトデス、是ハ始テ銘々共ハ聽キ  
マスルコトデ、十分審査ガ出來テ居リマセヌカラ、之ニ對スル政府ノ意見ヲ  
聽キタイ

(政府委員農商務總務長官藤田四郎君演壇ニ登ル)  
○政府委員(藤田四郎君) 唯今恆松君カラ修正案ガ出マシテゴザンスルガ、  
是ハ政府ニ於テモ、同意ヲ致シマスルデゴザイマス、殊ニ農商務省ノ方ノ側  
デハ、最も必要ヲ感シマスルノデゴザイマシテ、既ニ大藏省ニ伺ヒマシテモ、  
照會致シタ次第デゴザンスルガ、丁度今恆松君カラ提出セラレマシタ以上ハ、  
賛成ヲシテ通過セラレコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) ヲレデハ唯今ノ恆松君ノ修正說ニ付イテ採決ヲ致シマ  
ス、御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)  
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ恆松隆慶君ノ修正通り決シマス、然  
ラバ讀會ヲ省略シ、之ヲ以テ確定トシテ御異議アリマセヌカ

關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案 確定讀

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)  
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通過シマス——議事日程十二明治  
三十四年法律第二號中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告、天野若園君

十二 明治三十四年法律第二號中改正法 第一讀會ノ續(委員長  
報告)

(天野若園君演壇ニ登ル)  
○天野若園君(八十一番) 明治三十四年法律第二號中改正法律案ノ委員會ノ  
結果ヲ報告致シマス、委員會ニ於キマシテハ全會一致ヲ以テ、此案ヲ可決致  
シマシタ、其譯ハ理由書ニモ段々書イデアリマスルガ、重ナル點ハ元來地租

ノ第三納期ニ限ツテ、年末ト年始ニ跨ツテ居リマス、外ノ第四、第五、第六納  
期ノ如キハ、孰モ其月ノ一日ヨリ三十日、若クハ二十八日マデ、一箇月ヲ以  
テ納期トシテアルニ、第三納期ニ限ツテ、斯ノ如キ年末年始ニ跨ツテ居ルノハ、  
最も不都合デアアル、又其他此十二月中ノ如キハ、收穫ノ米ト云フモノガ、未  
ダ收穫デアアル、ヨシ之ヲ米ニシテ、即チ賣拂フノハ、甚ダ困難ヲ感ズルトキ  
デアアル、元來農家ニ於テハ收穫ノ米穀ヲ賣却シテ、納稅スルコト云フノガ、是  
マデノ慣例デアアル、即チ事實デアリマス、因テドウシテモ此案ノ如ク、今  
十五日間ヲ延シテ、一月一日ヨリ三十一日マデトシタ方ガ、一般農民ノ便利  
デアアル、又其他銀行會社等ノ利益ノ配當ヲ受ケルノモ、孰モ一月二十日以後  
ニ互ル、シテ見レバ修正ノ如ク一月十五日ノ納期ニナツテ居テハ非常ニ不便  
デアルカラ、ドウカ本案ノ如ク致サナケレバナラヌ、又諸般ノ縣稅ナリ、市町  
村稅ナドノ納期ハ、孰モ月末ニナツテ居ル、シテ見レバ併テ之ヲ町村役場ヘ  
納メルト云フニモ、非常ニ便宜デアアル、是ノ理由アツテ、大ニ本案ノ如ク地  
租ノ納期ガ改正ニナレバ、一般農民ノ便益ヲ得ルコトデアアルカラ、ト云フ譯  
合デ、委員會ハ一致ヲ以テ決議ニナリマシタカラ、滿場ノ諸君、宜シク御贊  
成アラシコトヲ希望致シマス

○永井嘉六郎君(二百八十八番) 是ハ政府委員ノ意見ヲ聽キタイ

○議長(片岡健吉君) 若槻政府委員

(政府委員大藏書記官若槻禮次郎君演壇ニ登ル)  
○政府委員(若槻禮次郎君) 唯今ノ法律デゴザイマスガ、僅カ十五日バカリ  
ノ延期ニナル譯デアリマスケレドモ、丁度此十二月ニハ國庫ノ方デハ、仕拂  
ノ多イ月デゴザイマスノデ、其後ト受ケテ國庫ノ收入ノ——國庫ノ現在金  
ノ少ナイトキニ於テ、此地租ガ丁度這入ツテ來ルト云フコトニナツテ居リマス  
カラ、唯今ノヤウニ改正致シマス云フト、國庫ニ於テハ凡ソ八百一十萬圓バ  
カリノ金ヲバ、十五日間借リテ置カナケレバナラヌ場合ニナル、即チ其金利  
ニ當ルモノダケハ、國庫ガ損ヲスルト云フコトニナリマスノデ、僅ノコトデ  
ハアリマスケレドモ、此改正ハ國庫ノ方デハ希望セヌノデ、尙ホ是ハ國庫ノ  
都合ヲ申シ上ゲマシタデアリマスガ、民間ノ關係カラ申シマスルト云フト、  
唯今委員長ノ述べラレマシタ如ク、一方ニ利益ハアリマセウケレドモ、又一  
方カラ申シマス云フト、今日ノ農家ノ取引ハ舊ノ節季ヲ用ヒテ居ル者ガ、  
餘程ゴザイマスカラ、ソレ等ニ取ツテハ或ハ斯ウ改正ニナルト、丁度金融ノ  
通テ居ルトキニ、地租ヲ拂ハナケレバナラヌト云フコトニナルカト思ヒマ  
スノデ、此點ニ於テモ必シモ修正案ノ方ガ、便宜ト言ハレヌデハナイカト考  
ヘテ居リマス、旁々今日ノ所デハ現行ノ體デアル方ガ、宜シカラウト思ヒマス

○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテハ、第二讀會ヲ開クヤ否ヤニ附イテ採決  
致シマス、第二次會ヲ開クト云フ諸君ノ起立ヲ讀ヒマス

起立者 少數  
○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス、第二讀會ハ開カザルコトニ決シマス  
議事日程十三葉煙草專賣法中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告——  
西原清東君

十三 葉煙草專賣法中改正法律案(西原 第一讀會ノ續(委員長報告))

(西原清東君演壇ニ登ル)

○西原清東君(二十九番) 諸君、本案ハ昨日ノ御決議ニ依リマシテ、昨日直チニ委員會ヲ開キマシテ、成規ノ通役員ヲ選舉致シマシテ、詳細ナル質問說明等ヲ經マシテ、遂ニ本案ノ儘ニ、即チ第五條政府ハ豫メ葉煙草耕作ノ區域ヲ定ムルコトヲ得タル中ノ區域ノ下ニ耕作段別及葉煙草種類ト云フ十字ヲ插入スルコト云フ、橋元議員ノ追加修正ガアリマシタル外、全體ヲ可決スベキモノト決定ヲシタリトゴザイマス、此段御報告致シマス

○望月長夫君(百五十四番) チョット質問ヲ致シタイ、委員長且ツ提出者トシテ質問ヲ致シマスガ、此非常ナ澤山ノ箇條ヲ、僅々ノ時間ニ御決議ニナツタト云フコトハ、非常ニ感服ヲ致スノデ、併ナガラ私共ガ讀ミ見マスルト、非常ニ疑ハシイ所ガアル、單ニ此六條ノ次ニ四條ヲ加ヘルコトダケニ附イテデモ、質問致シタイコトガ多數デアル、其第一ハ第六條ノ二ト云フ所ニ、政府ノ定ムル方法及手續ト云フコトガ書イテアルガ、方法ト云フコトハ、手續ト云フコトハ、如何ナル區別ヲ指スノデアルカ、是ガ第一、ツレカラ其次ノ項ニ若シ立會ハザルトキハ、其査定ニ對シ異議ヲ申立ルコトヲ得ズト云フコトガ書イテアルデ、サウシテ、其査定ヲ爲ス時日ハ、何日前ニ通知セネバナラナイト云フヤウナコトガ書イテアル、ツレヲ書カズニ立會ハナカッタトキニハ、異議ヲ言フコトハ出來ナイ、確定ノモノデアル、是ハナカク、後ニ至ルト百貫ヨリナイモノヲ、百五十貫目ト云フヤウナ査定ヲサレタ場合ニハ、五十貫目ト云フノハ、金デ納メナケレバナラヌト云フ、重大ノ結果ノ出テ來ルモノデアルノニ、斯ウ云フ規定デ宜イト云フハ、委員會ノ意志ハドウ云フモノデアルカ、ツレカラ其次ノ六條ノ四ニ至ルト、即時異議ヲ申立ヲ爲スコトヲ得タルガ、成ル程民事訴訟法ナシカニ、即時抗告ト云フコトノ意義ハ、即時抗告ト書イテアルガ、期間ハ七日ト云フコトガ書イテアルケレドモ、即時異議ノ申立ト云フコトハ、此所ニ始テ出ルモノデアルガ、此即時ト云フノハ如何ナル字義ヲ指スノデアルカ、ツレカラ其次ニ異議ノ申立アルトキハ、命令ノ定ムル所ニ依リ、二人以上ノ鑑定人ヲ選定シタルノハ、此鑑定人ト云フモノハ、隨分重イ役デ、所ガ今日ノ鑑定人ト云フモノ、甚ダ怪シイト云フコトハ、先刻御承知デアラウト思フ、然ルニ裁判所ノ鑑定人ノ如キハ、立派ニ不實ノ申立ヲ爲シタルトキニハ、刑法上ノ責任ガアルケレドモ、此鑑定ガ不實ノ申立ヲ致ス場合、多クノ場合ニ於テハ、煙草ノ製造人ト隱昧ノ關係ノ生ズルコトハ、無論デアル、今日ノ如キ下僚ノ收稅吏ノ信用ノ置ケナイ場合ニハ、ドチヲノ鑑定ヲスルモ分ラナイガ、此鑑定人ハ如何ナル製裁ニ付スルコトガ出來ル考デアアルカ、ツレカラ是次ニ異議ノ申立人ガ、異議ノ申立ヲ致シタ場合ノ費用ヲ非常ニ制限ヲ附ケテ、多クノ場合ニ於テハ異議ノ申立人ガ、此費用ヲ負擔セネバナラヌト云フコトニナツテ居ルガ、異議ノ申立人、煙草製造人ガ、例ヘバ百貫目アラウト思フ所ガ、ツレヲ政府ニ於テハ百五十貫目ト査定ヲシタ、此場合ニ鑑定ノ結果百三十貫目アルト鑑定サレタ、此場合ニ若シ先キニ此異議ノ申立人ガ、異議ヲ申立テズニ、服從致シテ居ッタナラバ、少クモ二十貫目代金ハ、是ハ取レナイノニ納メナケレバナラヌトデアアル、ツレハ

第六條ノ末ニ至ルト、サウ書イテアル、相當ノ理由ノ中ニハ、大風ガ吹イタトカ、何トカ特別ノ事由ガアツタ場合デナケレバ許サナイ、相當ノ事由ト云フノデアアラウガ、サウスルト煙草ノ製作者人自身、二十貫目ノ多クノ物ノ取レナイノヲ、代價デ納メヌナラヌヤウナ、重イ責任ノアル場合ニ、異議ノ申立ヲ致シタノニ、此場合ニハ申立ノ費用ノ全部ヲ、矢張申立人ガ負擔セネバナラナイト云フコトニ書イテアル、是ハ何故ニ異議ノ申立人ニ、此ノ如キ責罰ヲ科セラル、ノデアアルカ、是等ノ諸君ニ於テ委員會ニ於テ、如何ナル御論ガアツタカ、若シナシトスレバ、提出者ハ如何ナル説明ヲ與ヘルカ、ツレヲ承リタ

○西原清東君(二十九番) 望月君ニ答ヘラレル限ハ御答ヲ申シテ置キマス、第六條ノ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リタル點ハ、植付ノ期節、移植ノ期節、肥料ヲ施ス期節方法等ヲ意味スルモノデアリマシテ、立案ノ趣意ハ取締ヲ嚴重ニスル共ニ、此耕作人ト云フモノハ、詰リ專賣事業ノ機關ノ如キモノデアアルカラ、親切ニ保護シテヤランケレバナラヌト云フコト、査定ヲスルニ付キマシテ、區々マチノ耕作デアツテハ、査定ニ非常ナ手數ヲ要スルノデアリマスカラ、土地ニ應ジ成ルベク畫一ニ耕作ヲ致スト云フノ主意ヨリ、方法手續ニマデ政府ガ干涉致シマシテ、ツレニ依ッテ耕作ヲサセルト云フノ主意デゴザイマス、ツレカラ異議申立ノ期限、鑑定人ノ責任、鑑定ニ關スル費用ノ如キモノハ、望月君ハ、此法律文ニナイ所ノモノニ附イテ、御疑ガアルデゴザイマセウケレドモ、是ニハ無論施行手續ガ添ウテゴザイマスカラ、ツレニ依ッテ出來ルノデアリマス、ツレカラ鑑定ノ費用ニ關シマシテハ、現行法ハ總テ鑑定ヲ請求スル、即チ異議申立人ノ負擔トスルト云フ規定ヲ本案ノ改正ハ、申立人ノ主張ガ鑑定ノ結果ニ違カッタトキニ、其責任ヲ負擔セシムルト云フコトデアリマシテ、決シテ過重ナル責任デハナイ、現行法ヨリハ寛大ニナツテ居ル方ナノデゴザイマス、之ニ附キマシテハ委員會ニ於キマシテハ、段々質問ガアリマシテ、政府ガ之ニ對シテ施行上ノ答辯モ、詳細アリマシタノデゴザイマスカラ、尙ホ私ノ説明ノ不十分ナル所ハ、筆記ニ據ッテ御承知アラント願ヒマス

○工藤行幹君(六十六番) 定足數ガナイヤウニ思ヒマスガ、ドウデゴザイマス

(書記官長出席議員ノ數ヲ點檢ス)  
○議長(片岡健吉君) 定足數ヲ缺イテ居リマスカラ、此議事ハ先ツ是デ止マス

(議長召集ヲ願ヒマス)ト呼フ者アリ  
○恆松隆慶君(百二十六番) 定足數ニ滿チテ居ルヤウニ思ヒマスガ、ドウデス  
○議長(片岡健吉君) 定足數ヲ缺イタヤウニ見エマスカラ、モウ是デ議事ヲ止メマシテ、報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

舊神官配當祿處分法案

提出者 永井 昇六郎君 松島 康作君

輸入原料砂糖戻稅法案

提出者 栗原 亮一君 恆松 隆慶君 早川 龍介君

後藤文一郎君磯田和藏君伊藤德三君鯨島相政君安藤龜太郎君山下千代雄君  
高須賀穰君青柳四郎君西原清東君丸山嵯峨一郎君林元俊君ヨリ司法官ノ増  
俸運動ニ關シ、田中正造君ヨリ政府自ラ侮リテ國ヲ危クセシ義ニ關シ、島  
田三郎君關直彦君永田佐次郎君大村和吉郎君ヨリ地方行政ノ紊亂ニ關シ質  
問主意書ヲ提出セラレタリ  
委員ヲ指名スル左ノ如シ

水害地方田畑地租免租ニ關スル法律案兩院協議委員

高岡 忠郷君 橋本 久太郎君 永井 嘉六郎君

山口 熊野君 藤 金 作君 田村 順之助君

深尾 龍三君 關 直 彦君 廣住 久道君

白井 哲夫君 關 直 彦君 廣住 久道君

生絲検査所法中改正法律案

五十野 讓君 林 喬君 山田 莊左衛門君

下飯坂權三郎君 片岡 久一郎君 畠山 雄三君

西村 眞太郎君 内山 松 世君 中村 彌六君

馬匹去勢法案

佐藤 通代君 新井 啓一郎君 植木 致一君

大須賀庸之助君 佐藏 昌藏君 西田 收三君

星 松三郎君 奈須川 光 寶君 松尾 又雄君

委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

帝國古蹟取調會國庫補助ニ關スル建議案

委員長 早川 龍介君 堀 豐 彦君

史談會國庫補助ニ關スル建議案

委員長 田口 卯吉君 理事 根本 正君

私設鐵道新線路敷設ニ對シ補助利子ヲ附與スル件ニ關スル建議案

委員長 山本 幸彦君 理事 鈴木 忠兵衛君

田畑地價特別修正法律案

委員長 後藤 文一郎君 理事 平岡 萬次郎君

狩獵法改正法律案外一件

委員長 佐藤 昌藏君 理事 堀越 寛介君

〔左ノ質問書ハ朝續ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

司法官ノ増俸運動ニ對スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 後藤 文一郎 磯田 和藏 伊藤 德三

鯨島 相政 安藤 龜太郎 山下 千代雄

高須 賀穰 青柳 四郎 西原 清東

丸山 嵯峨一郎 林 元 俊

贊成者 上條 謹一郎 外三十一名

司法官ノ増俸運動ニ對スル質問主意書

裁判所ニ關スル増俸豫算問題ニ付司法官ニ於テ意見書ヲ發表シ其他運動ケ

ニ違背シタルモノナリ政府ハ此違法ノ所爲ニ對シテ如何ナル意見ヲ持シ如  
何ナル處分ヲ爲サントスルカ  
右及質問候也

政府自ラ侮リテ國ヲ危クセシ義ニ付質問書  
右成規ニ據リ提出候也

明治三十四年三月十九日

提出者 田中 正造

贊成者 江藤 新作

外四十三名

質問主意書

政府ノ敵ハ固ヨリ人民ニ非ス將タ亦必スシモ外國ニ非ス政府自ラ自國ヲ信  
セス自國ヲ侮リ終ニハ憲法ヲ破壞シテ秩序ヲ紊亂セルニアリ而テ時局ノ之  
ヲ如何トモスヘカラサルニ當リテハ屢 勅語ヲ煩ハシタリ之レ犯スヘカラ  
サルノ

神聖ヲ犯シ謹ムヘキノ德ヲ守ラス大臣互ニ重要ノ責任ヲ避ケテ國民ノ怨ミ  
ヲ皇室ニ歸シ人心ヲ離隔シ内治ヲ紊亂シ國家忠良ノ臣民ヲシテ恐懼措ク能  
ハサラシム年既ニ久シ之レ誠ニ自ラ其國ヲ危クスルモノナラスヤ如何  
右及質問候也

○議長(片岡健吉君) 明日モ例刻ヨリ會議ヲ開キマス、議事日程ハ公報ヲ以  
テ御通知致シマス、今日ハ是ニテ散會致シマス

午後四時二十八分散會